

アニマルウェルフェア飼養管理確立推進事業に係る

第3回専門委員会

日時：平成22年3月5日（金） 14時～17時

場所：馬事畜産会館 会議室

（東京都中央区新川2-6-16）

1. 開会

2. 挨拶

3. 協議事項

（1）飼養実態アンケート報告書（中間とりまとめ）

（2）飼養管理指針における「一般原則」について

（3）平成22年度事業実施スケジュール

（4）意見交換

（5）その他

## アニマルウェルフェア飼養管理確立推進事業

### 第3回専門委員会出席者名簿

独立行政法人家畜改良センター十勝牧場	業務第二課長	岡 明男
帯広畜産大学	教 授	柏村 文郎
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター	教 授	近藤 誠司
十勝馬事振興会	会 長	佐々木啓文
上川生産農業協組合連合会	畜産部長	鈴木 昇
北海道農業共済組合連合会 企画研修課	技術総括	三木 渉
全農畜産サービス株式会社	常務取締役	中塚 真五
日本中央競馬会 競走馬総合研究所	研究役	松井 朗
社団法人日本装蹄師会 装蹄教育センター	装蹄研究課長	森 達也
全国公営競馬獣医師協会	会 長	物江 貞雄

#### (オブザーバー)

農林水産省生産局畜産部畜産振興課	課長補佐	菅谷 公平
	馬係長	荒川 由紀子
環境省自然環境局総務課動物愛護管理室	室長補佐	今川 正紀
日本中央競馬会馬事部	上席調査役	宮崎 栄喜
社団法人日本軽種馬協会 生産情報部	部 長	伊藤 雅之
業務部	首席調査役	江口 貞男

#### 事務局

社団法人日本馬事協会	専務理事	倉澤 景晴
	常務理事	安武 正秀
	業務部長	佐藤 修
	業務部主査	山下 大輔
		原田 寛久

資料 1

平成 21 年度アニマルウェルフェア飼養管理確立推進事業

飼養実態アンケート調査報告書

平成 21 年 3 月

社団法人 日本馬事協会

## I. 調査の目的

アニマルウェルフェアに対応した馬の飼養管理については、近年、EUやカナダ、さらには、OIE等において基準の策定等の取り組みが進んでいる。

今後、我が国においても具体的にアニマルウェルフェアに対応した飼養管理に取り組むためには、飼養管理指針等の策定が必要であるが、その際、海外の基準やガイドラインを参考にしつつ、我が国の実情にも考慮する必要がある。

このため、我が国における家畜の飼養管理の実態について、アンケート調査を行い、馬のアニマルウェルフェアに対応した飼養管理指針の策定に資するものである。

## II. 調査の方法

### ア. アンケート調査

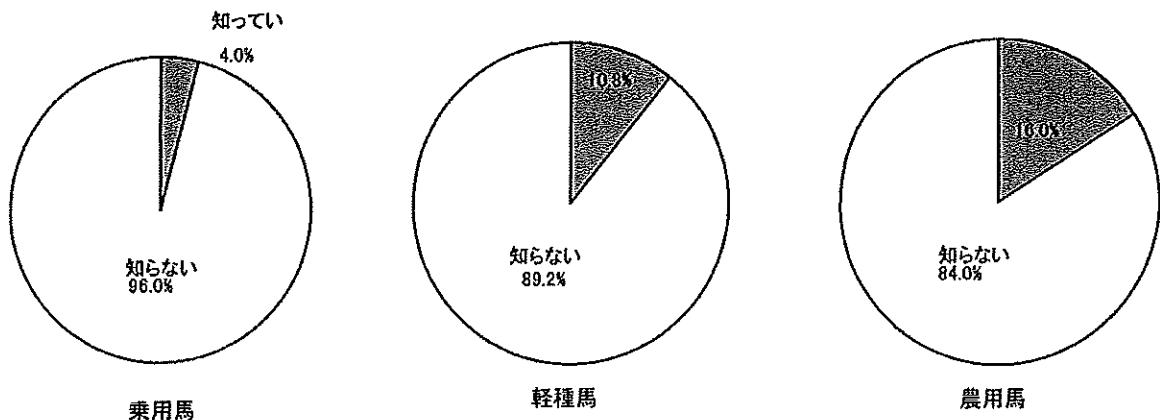
軽種馬におけるアンケート調査は、社団法人日本軽種馬協会に委託する。アンケート調査内容は、付録1「アニマルウェルフェア アンケート調査表」によるものとする。また、軽種馬以外の馬におけるアンケート調査は、当協会が実施することとし、アンケート調査内容は、付録2「アニマルウェルフェア アンケート調査表」によるものとする。

なお、調査時期は、平成21年9月中旬から平成21年12月末日までであった。

### III アニマルウェルフェアについて

アニマルウェルフェアの認知度は、全体で88.3%が知らないという回答であり、品種区分では、農用馬が最も多く16.0%であった。次いで軽種馬10.8%、乗用馬（在来馬を含む。）（在来馬を含む。）が4%であった。

項目	乗用馬		軽種馬		農用馬		全体	
	回答数 (件)	割合	回答数 (件)	割合	回答数 (件)	割合	回答数 (件)	割合
知っている	1	4.0%	17	10.8%	13	16.0%	31	11.7%
知らない	24		141	89.2%	68	84.0%	233	88.3%
合 計	25	100.0%	158	100.0%	81	100.0%	264	100.0%

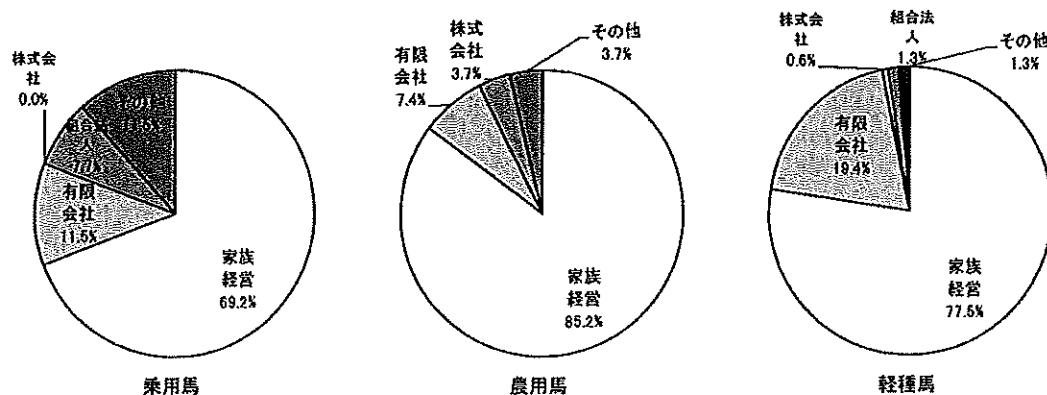


## IV 経営に関する事項

### 1. 経営体制

経営体制は、家族経営が最も多く79.0%、有限会社が15.0%、株式会社1.5%、組合法人1.5%、その他3.0%であった。家族経営の割合が最も少ない乗用馬（在来馬を含む。）は、その他の割合が最も多く11.5%であった。

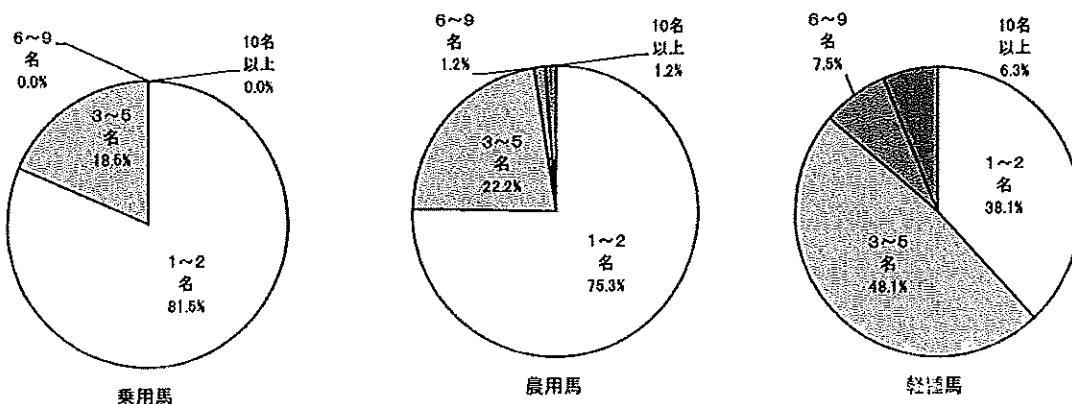
項目	乗用馬		農用馬		軽種馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
家族経営	18	69.2%	69	85.2%	124	77.5%	211	79.0%
有限会社	3	11.5%	6	7.4%	31	19.4%	40	15.0%
株式会社	0	0.0%	3	3.7%	1	0.6%	4	1.5%
組合法人	2	7.7%	0	0.0%	2	1.3%	4	1.5%
その他	3	11.5%	3	3.7%	2	1.3%	8	3.0%
合 計	26	100.0%	81	100.0%	160	100.0%	267	100.0%



### 2. 従事者数

従事者数経営体制は、1～2名が最も多く26.9%、3～5名が18.7%、6～9名が2.4%、10名以上が2.1%であった。

項目	乗用馬		農用馬		軽種馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
1～2名	22	81.5%	61	75.3%	61	38.1%	144	26.9%
3～5名	5	18.5%	18	22.2%	77	48.1%	100	18.7%
6～9名	0	0.0%	1	1.2%	12	7.5%	13	2.4%
10名以上	0	0.0%	1	1.2%	10	6.3%	11	2.1%
合 計	27	100.0%	81	100.0%	160	100.0%	536	100.0%

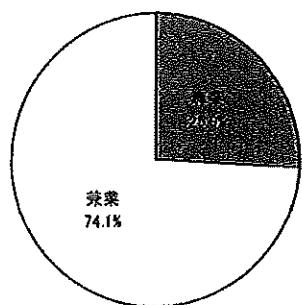


### 3. 主たる収入源

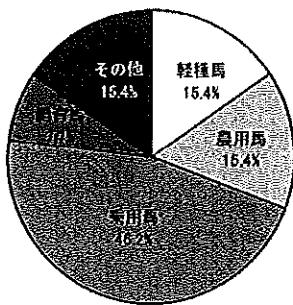
経営タイプでは、兼業が全体の72.9%であり、内訳は畑作等36.4%、肉用牛24.7%、酪農18.2%、土建など自営業20.8%、サラリーマン13.0%であった。

専業は、全体の27.1%であり、内訳は農用馬45.7%、肥育馬19.6%、乗用馬（在来馬を含む。）19.6%その他8.7%であった。

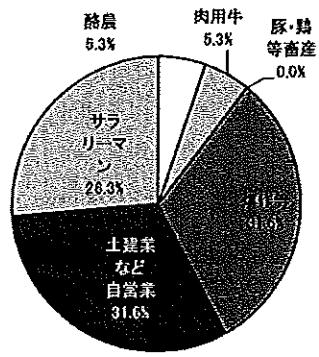
項目	乗用馬		農用馬		農用馬	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
専業	7	25.9%	22	27.5%	29	27.1%
軽種馬	2	15.4%	1	3.0%	3	6.5%
農用馬	2	15.4%	19	57.6%	21	45.7%
乗用馬	6	46.2%	3	9.1%	9	19.6%
肥育馬	1	7.7%	8	24.2%	9	19.6%
その他	2	15.4%	2	6.1%	4	8.7%
小計	13	100.0%	33	100.0%	46	100.0%
兼業	20	74.1%	58	72.5%	78	72.9%
酪農	1	5.3%	13	19.1%	14	16.1%
肉用牛	1	5.3%	18	26.5%	19	21.8%
豚・鶏等畜産	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
畑作等	6	31.6%	22	32.4%	28	32.2%
土建業など自営業	6	31.6%	10	14.7%	16	18.4%
サラリーマン	5	26.3%	5	7.4%	10	11.5%
小計	19	100.0%	68	100.0%	87	100.0%
合計	27	100.0%	80	100.0%	107	100.0%



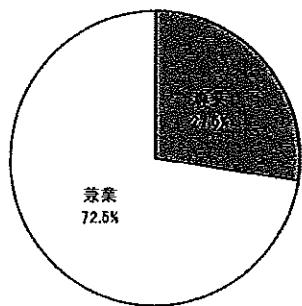
乗用馬



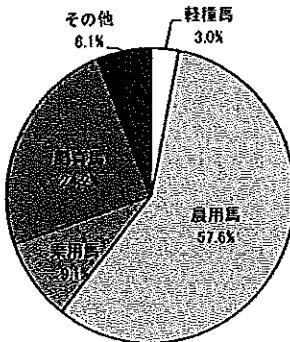
専業



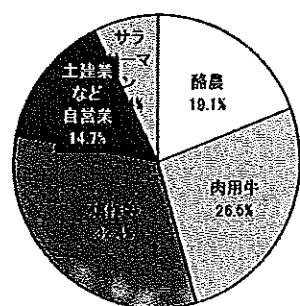
兼業



農用馬



専業



兼業

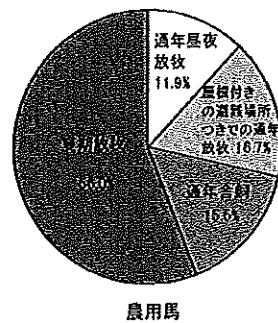
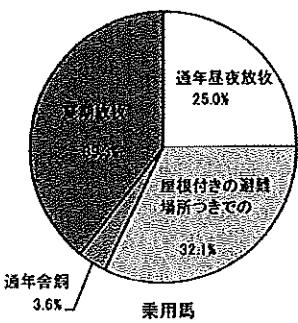
## V 馬の飼養に関する事項

### 1. 馬の主な飼養方法

農用馬における主な飼養方法は、55.9%が夏期放牧冬期舎飼と最も多く、屋根付き避難場所付きでの通年放牧が16.7%、通年舎飼が15.5%、通年昼夜放牧が11.9%であった。

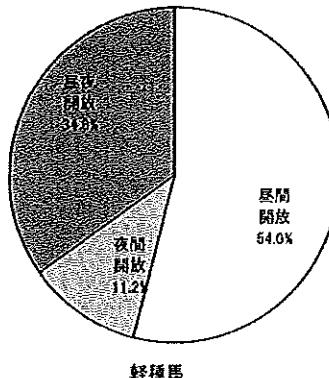
乗用馬(在来馬を含む。)における主な飼養方法は、39.3%が夏期放牧冬期舎飼と最も多く、屋根付き避難場所付きでの通年放牧が32.1%、通年昼夜放牧が25.0%、通年舎飼が3.6%であった。

項目	乗用馬		農用馬	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
通年昼夜放牧	7	25.0%	10	11.9%
屋根付きの避難場所つきでの通年放牧	9	32.1%	14	16.7%
通年舎飼	1	3.6%	13	15.5%
夏期放牧冬期舎飼	11	39.3%	47	56.0%
合 計	28	100.0%	84	100.0%



軽種馬における主な飼養方法は、54.0%が昼間放牧と最も多く、昼夜放牧が34.8%、夜間放牧が11.2%であった。

項目	回答数(件)	割合
昼間開放	87	54.0%
夜間開放	18	11.2%
昼夜開放	56	34.8%
合 計	161	100.0%



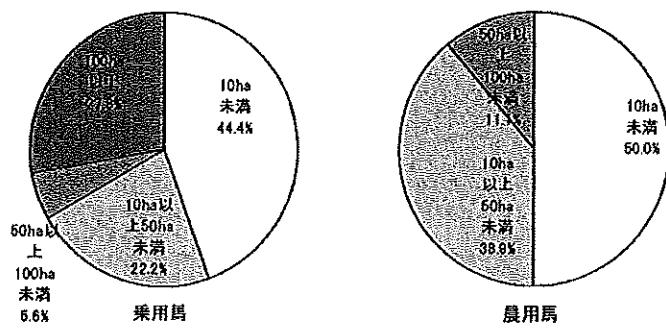
## 2. 放牧地の広さ

### ① 個人で使用

乗用馬(在来馬を含む。)における個人使用での放牧地の広さは、44.4%が10ha未満と10ha以上50ha未満が並び最も多く、50ha以上100ha未満と100ha以上が5.6%であった。

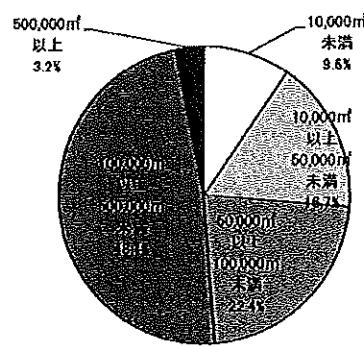
農用馬における個人使用での放牧地の広さは、50.0%が10ha未満と最も多く、10ha以上50ha未満が38.9%、50ha以上100ha未満が11.1%であった。

項目	乗用馬		農用馬	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
10ha未満	8	44.4%	18	50.0%
10ha以上50ha未満	4	22.2%	14	38.9%
50ha以上100ha未満	1	5.6%	4	11.1%
100ha以上	5	27.8%	0	0.0%
合 計	18	100.0%	36	100.0%



軽種馬における個人使用での放牧地の広さは、48.1%で100,000m<sup>2</sup>以上500,000m<sup>2</sup>未満と最も多く、50,000m<sup>2</sup>以上100,000m<sup>2</sup>未満が22.4%、10,000m<sup>2</sup>以上50,000m<sup>2</sup>未満が16.7%、10,000m<sup>2</sup>未満が9.6%、500,000m<sup>2</sup>以上が3.2%であった。

項目	回答数(件)	割合
10,000m <sup>2</sup> 未満	15	9.6%
10,000m <sup>2</sup> 以上50,000m <sup>2</sup> 未満	26	16.7%
50,000m <sup>2</sup> 以上100,000m <sup>2</sup> 未満	35	22.4%
100,000m <sup>2</sup> 以上500,000m <sup>2</sup> 未満	75	48.1%
500,000m <sup>2</sup> 以上	5	3.2%
合 計	156	100.0%



軽種馬 個人で使用

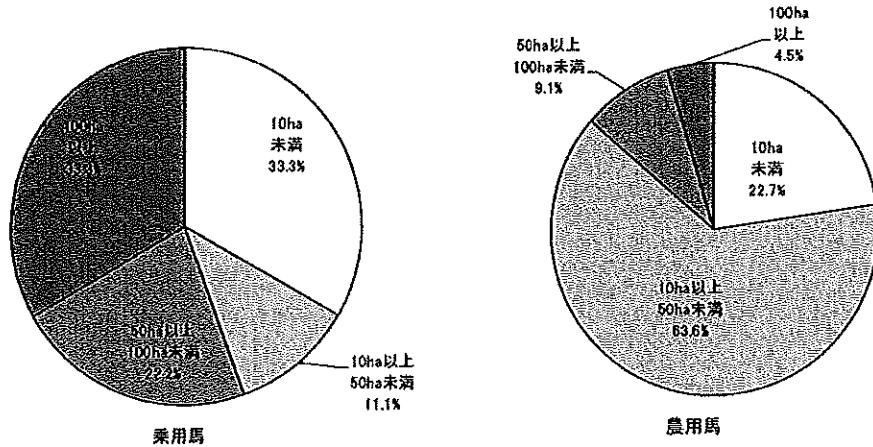
## ② 共同牧野等で使用

乗用馬(在来馬を含む。)における個人使用での放牧地の広さは、33.3%が10ha未満と100ha以上が最も多い、

50ha以上100ha未満が22.2%、10ha以上50ha未満が11.1%であった。

農用馬における共同牧野等での放牧地の広さは、63.6%が10ha以上50ha未満と最も多い、10ha未満が22.7%、

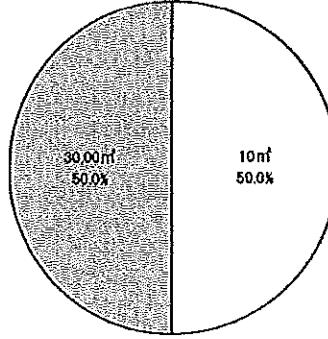
項目	乗用馬		農用馬	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
10ha未満	3	33.3%	5	22.7%
10ha以上50ha未満	1	11.1%	14	63.6%
50ha以上100ha未満	2	22.2%	2	9.1%
100ha以上	3	33.3%	1	4.5%
合 計	9	100.0%	22	100.0%



軽種馬における共同牧野等での放牧地の広さは、2件の回答があり、10m<sup>2</sup>と30,000m<sup>2</sup>にともに1件づつの回答

## 共同牧野等で使用

項目	回答数(件)	割合
10m <sup>2</sup>	1	50.0%
30,000m <sup>2</sup>	1	50.0%
合 計	2	100.0%



軽種馬 共同牧野等で使用

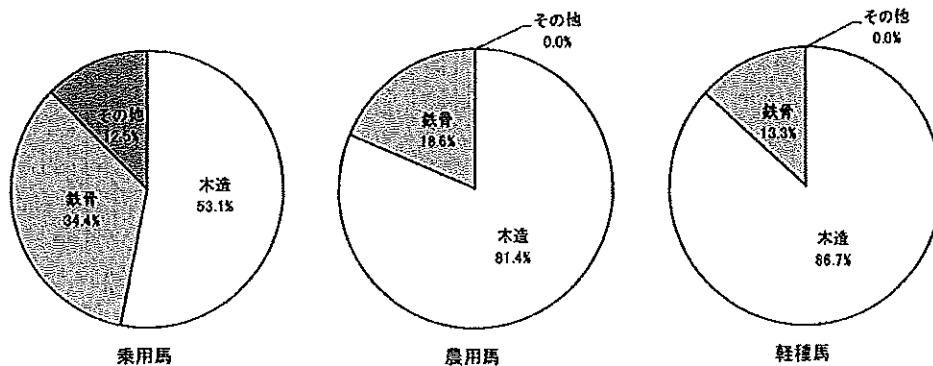
### 3. 厥舎規模

乗用馬(在来馬を含む。)における厥舎構造は、53.1%が木造と最も多く、鉄筋が34.4%、その他12.5%であった。

軽種馬における厥舎構造は、86.7%が木造と最も多く、鉄筋が13.3%であった。

農用馬における厥舎構造は、81.4%が木造と最も多く、鉄筋が18.6%であった。

項目	乗用馬		農用馬		軽種馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
木造	17	53.1%	70	81.4%	144	86.7%	231	81.3%
鉄骨	11	34.4%	16	18.6%	22	13.3%	49	17.3%
その他	4	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	4	1.4%
合 計	32	100.0%	86	100.0%	166	100.0%	284	100.0%

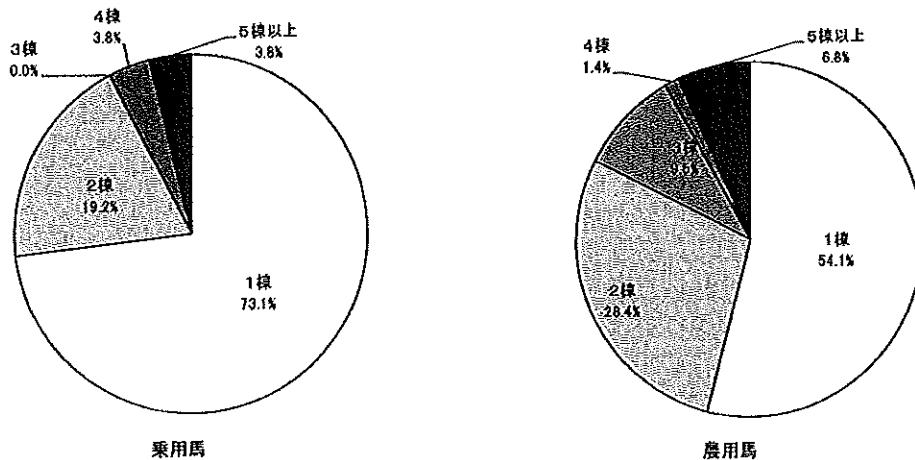


### 棟数

乗用馬(在来馬を含む。)における厥舎構造は、73.1%が1棟と最も多く、2棟が19.2%、4棟と5棟以上が3.8%であった。

農用馬における厥舎規模は、54.0%が1棟と最も多く、2棟が28.4%、3棟が9.4%、5棟以上が6.8%、4棟が1.4%であった。

項目	乗用馬		農用馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
1棟	19	73.1%	40	54.1%	59	59.0%
2棟	5	19.2%	21	28.4%	26	26.0%
3棟	0	0.0%	7	9.5%	7	7.0%
4棟	1	3.8%	1	1.4%	2	2.0%
5棟以上	1	3.8%	5	6.8%	6	6.0%
合 計	26	100.0%	74	100.0%	100	100.0%

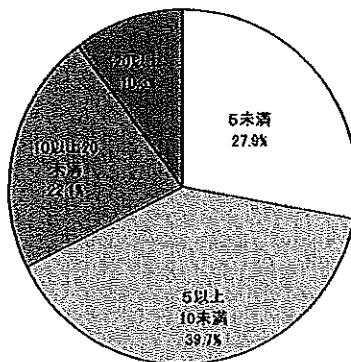
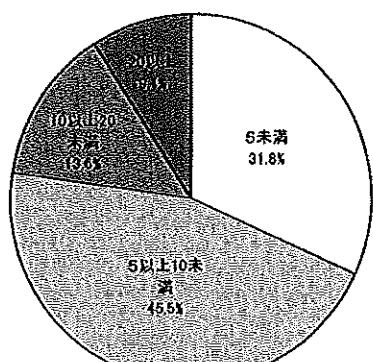


### 馬房数

乗用馬(在来馬を含む。)における馬房数は、45.1%が5坪以上10坪未満と最も多い、5坪未満が31.8%、10坪以上20坪未満が13.6%、20坪以上が9.1%であった。

農用馬における馬房数は、39.7%が5坪以上10坪未満と最も多い、5坪未満が27.9%、10坪以上20坪未満が22.1%、20坪以上が10.3%であった。

項目	乗用馬		農用馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
5未満	7	31.8%	19	27.9%	26	28.9%
5以上10未満	10	45.1%	27	39.7%	37	41.1%
10以上20未満	3	13.6%	15	22.1%	18	20.0%
20以上	2	9.1%	7	10.3%	9	10.0%
合 計	22	100.0%	68	100.0%	90	100.0%

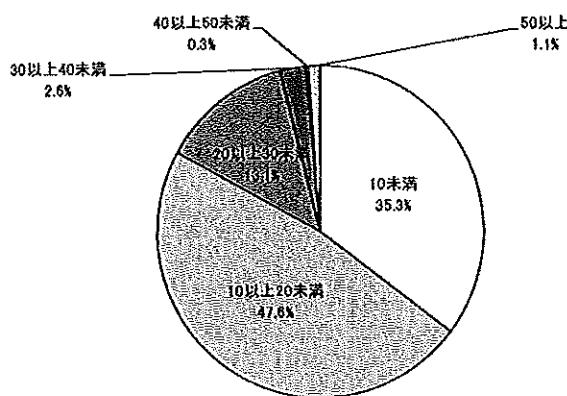


乗用馬

農用馬

軽種馬における馬房数は、46.7%が10以上20未満と最も多い、10未満が35.3%、20以上30未満が13.1%、30以上40未満が2.6%、50以上が1.1%、40以上50未満が0.3%であった。

項目	回答数(件)	割合
10未満	124	35.3%
10以上20未満	167	46.7%
20以上30未満	46	13.1%
30以上40未満	9	2.6%
40以上50未満	1	0.3%
50以上	4	1.1%
合 計	351	100.0%

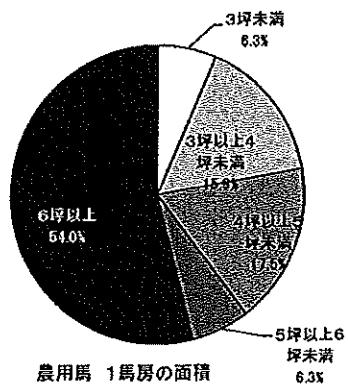
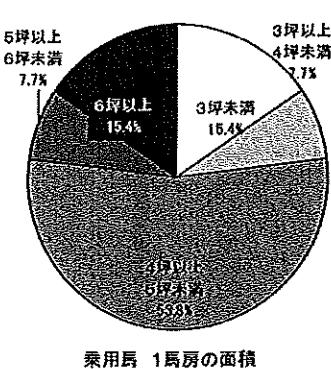


### 1馬房の面積

乗用馬(在来馬を含む。)における1馬房の広さは、53.8%が4坪以上5坪未満と最も多い、6坪以上と3坪未満が並んで15.4%、3坪以上4坪未満と5坪以上6坪未満が並んで7.7%であった。

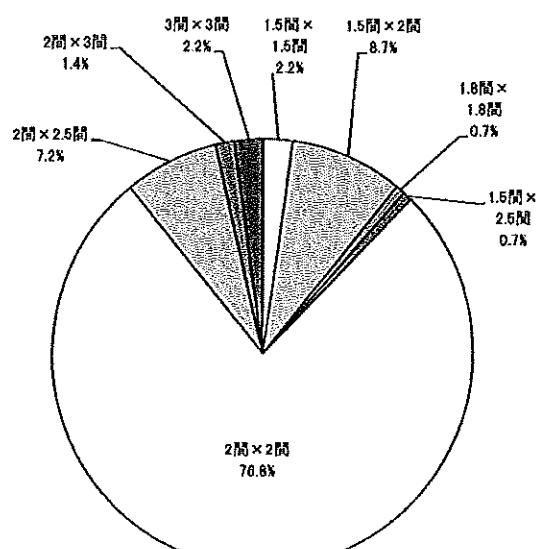
農用馬における1馬房の広さは、54.0%が6坪以上と最も多い4坪以上5坪未満が17.5%、3坪以上4坪未満が15.9%、3坪未満と5坪以上6坪未満が並んで6.3%であった。

項目	乗用馬		農用馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
3坪未満	2	15.4%	4	6.3%	6	7.9%
3坪以上4坪未満	1	7.7%	10	15.9%	11	14.5%
4坪以上5坪未満	7	53.8%	11	17.5%	18	23.7%
5坪以上6坪未満	1	7.7%	4	6.3%	5	6.6%
6坪以上	2	15.4%	34	54.0%	36	47.4%
合 計	13	100.0%	63	100.0%	76	100.0%



軽種馬における1馬房の広さは、76.8%が2間×2間と最も多い、1.5間×2間が8.7%、2間×2.5間が7.2%、1.5間×1.5間と3間×3間が並んで2.2%、2間×3間が1.4%、1.8間×1.8間と1.5間×2.5間が0.7%であった。

項目	回答数(件)	割合
1.5間×1.5間	3	2.2%
1.5間×2間	12	8.7%
1.8間×1.8間	1	0.7%
1.5間×2.5間	1	0.7%
2間×2間	106	76.8%
2間×2.5間	10	7.2%
2間×3間	2	1.4%
3間×3間	3	2.2%
合 計	138	100.0%

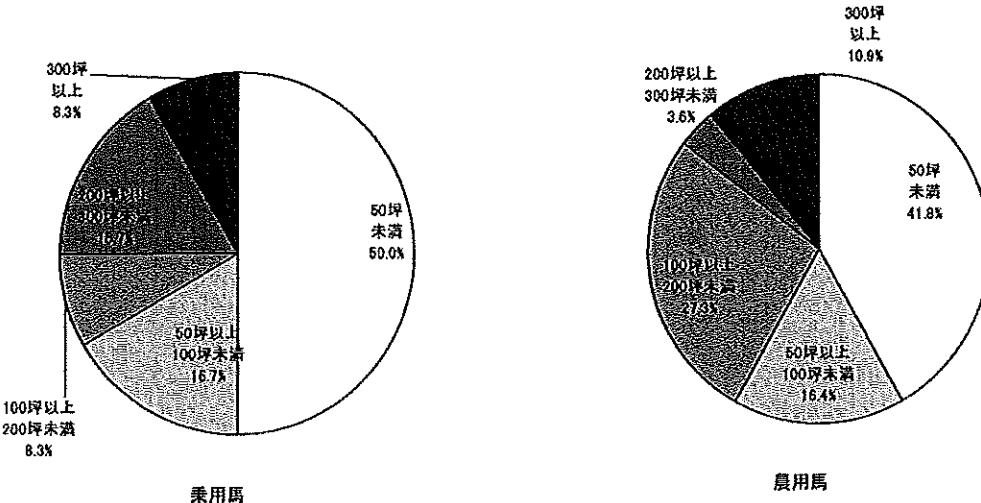


### 厩舎面積

乗用馬(在来馬を含む。)における厩舎の面積は、50.0%が50坪未満と最も多い、50坪以上100坪未満と200坪以上300坪未満が並んで16.7%、100坪以上200坪未満と300坪以上が並んで8.3%であった。

農用馬における厩舎の面積は、41.8%が50坪未満と最も多い、100坪以上200坪未満が27.3%、50坪以上100坪未満が16.4%、300坪以上が10.9%、00坪以上300坪未満が3.6%であった。

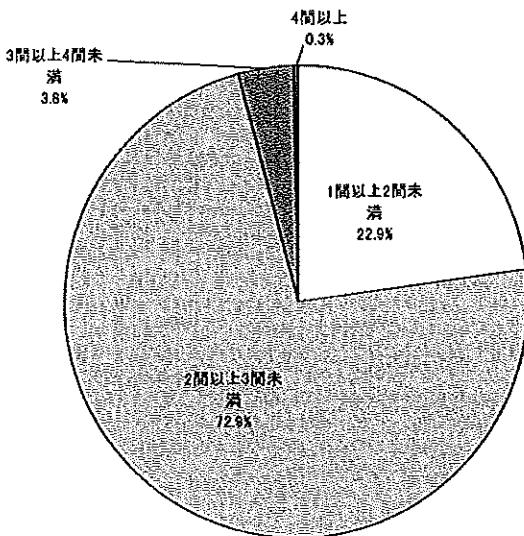
項目	乗用馬		農用馬	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
50坪未満	6	50.0%	23	41.8%
50坪以上100坪未満	2	16.7%	9	16.4%
100坪以上200坪未満	1	8.3%	15	27.3%
200坪以上300坪未満	2	16.7%	2	3.6%
300坪以上	1	8.3%	6	10.9%
合 計	12	100.0%	55	100.0%



### 通路幅

項目	回答数(件)	割合
1間以上2間未満	72	22.9%
2間以上3間未満	229	72.9%
3間以上4間未満	12	3.8%
4間以上	1	0.3%
合 計	314	100.0%

軽種馬における厩舎の通路幅は、72.9%が2間以上3間未満と最も多い、1間以上2間未満が22.9%、3間以上4間未満が3.8%、4間以上が0.3%であった。



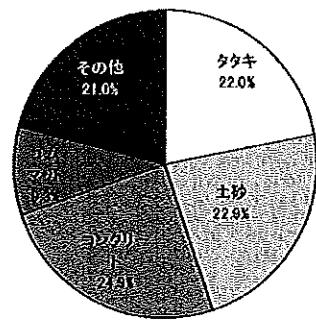
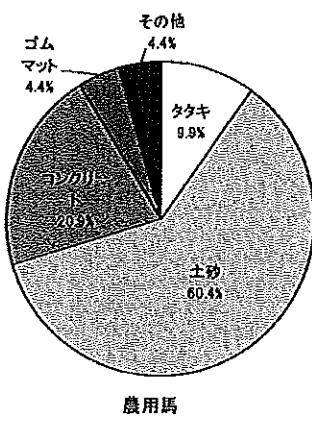
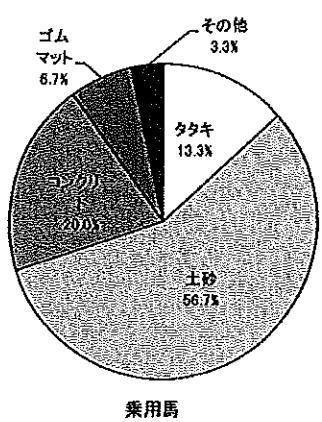
### 床構造

乗用馬(在来馬を含む。)における厩舎の床構造は、56.7%が土砂と最多く、コンクリートが20.0%、タタキが13.3%、ゴムマットが6.7%、その他が3.3%であった。

農用馬における厩舎の床構造は、60.4%が土砂と最多く、コンクリートが20.9%、タタキが9.9%、ゴムマットとその他が並んで4.5%であった。

軽種馬における厩舎の床構造は、24.9%がコンクリートと最多く、土砂が22.9%、タタキが22.0%、その他が21.0%、ゴムマットが9.3%であった。

項目	乗用馬		農用馬		軽種馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
タタキ	4	13.3%	9	9.9%	45	22.0%	58	17.8%
土砂	17	56.7%	55	60.4%	47	22.9%	119	36.5%
コンクリート	6	20.0%	19	20.9%	51	24.9%	76	23.3%
ゴムマット	2	6.7%	4	4.4%	19	9.3%	25	7.7%
その他	1	3.3%	4	4.4%	43	21.0%	48	14.7%
合 計	30	100.0%	91	100.0%	205	100.0%	326	100.0%



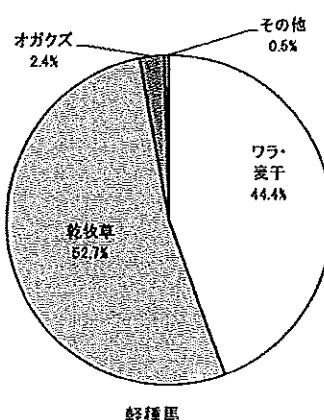
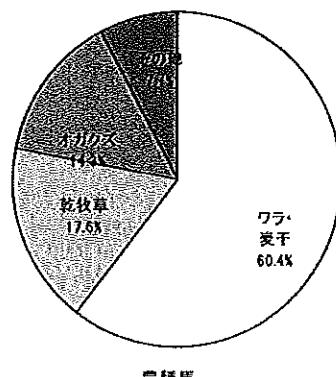
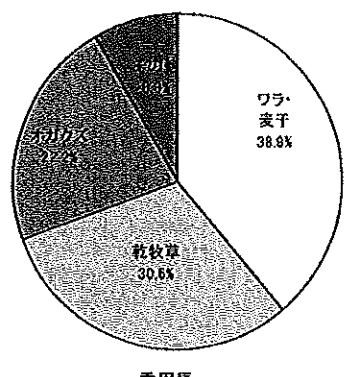
### 敷料

乗用馬(在来馬を含む。)における敷料は、38.9%がワラ・麦干と最多く、乾牧草が30.6%、オガクズが22.2%、その他が8.3%であった。

農用馬における敷料は、60.4%がワラ・麦干と最多く、乾牧草が17.6%、オガクズが14.3%、その他が7.7%であった。

軽種馬における敷料は、52.7%が乾牧草と最多く、ワラ・麦干が44.4%、オガクズが2.4%、その他が0.5%であった。

項目	乗用馬		農用馬		軽種馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
ワラ・麦干	14	38.9%	55	60.4%	91	44.4%	160	48.2%
乾牧草	11	30.6%	16	17.6%	108	52.7%	135	40.7%
オガクズ	8	22.2%	13	14.3%	5	2.4%	26	7.8%
その他	3	8.3%	7	7.7%	1	0.5%	11	3.3%
合 計	36	100.0%	91	100.0%	205	100.0%	332	100.0%



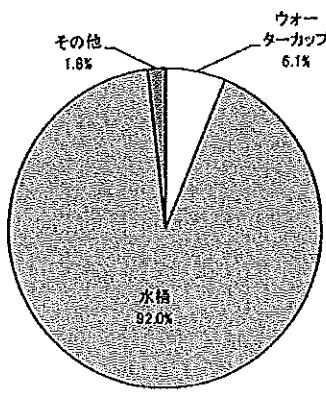
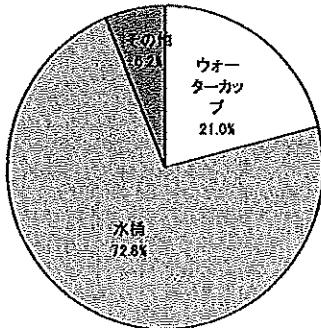
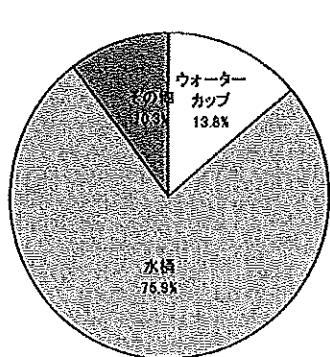
### 給水方法

乗用馬(在来馬を含む。)における給水方法は、75.9%が水桶と最も多く、ウォーターカップが13.8%、その他が10.3%であった。

農用馬における給水方法は、72.8%が水桶と最多く、ウォーターカップが21.0%、その他が6.2%であった。

軽種馬における給水方法は、92.0%が水桶と最多く、ウォーターカップが6.1%、その他が1.8%であった。

項目	乗用馬		農用馬		軽種馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
ウォーターカップ	4	13.8%	17	21.0%	10	6.1%	31	11.4%
水桶	22	75.9%	59	72.8%	150	92.0%	231	84.6%
その他	3	10.3%	5	6.2%	3	1.8%	11	4.0%
合 計	29	100.0%	81	100.0%	163	100.0%	273	100.0%



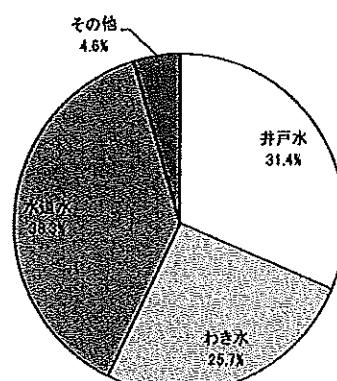
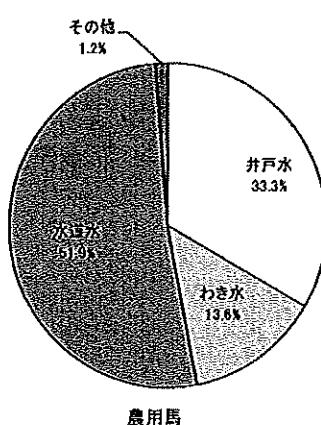
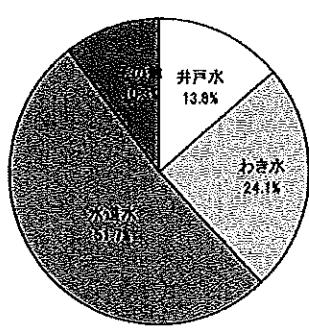
### 水の種類

乗用馬(在来馬を含む。)に与える水の種類は、51.7%が水道水と最多く、わき水が24.1%、井戸水が13.8%、その他が10.3%であった。

農用馬に与える水の種類は、51.9%が水道水と最多く、井戸水が33.3%、わき水が13.6%、その他が1.2%であった。

軽種馬に与える水の種類は、38.3%が水道水と最多く、井戸水が31.4%、わき水が25.7%、その他が4.6%であった。

項目	乗用馬		農用馬		軽種馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
井戸水	4	13.8%	27	33.3%	55	31.4%	86	30.2%
わき水	7	24.1%	11	13.6%	45	25.7%	63	22.1%
水道水	15	51.7%	42	51.9%	67	38.3%	124	43.5%
その他	3	10.3%	1	1.2%	8	4.6%	12	4.2%
合 計	29	100.0%	81	100.0%	175	100.0%	285	100.0%



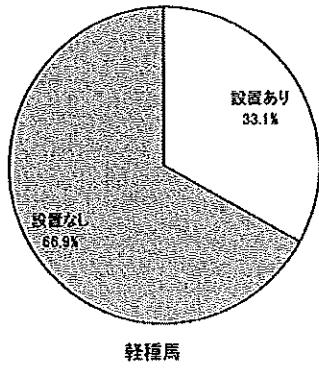
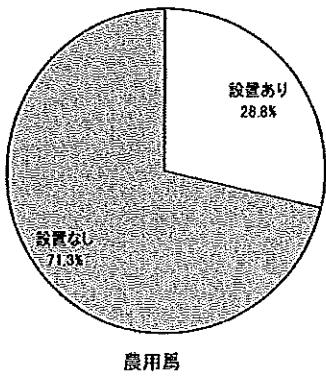
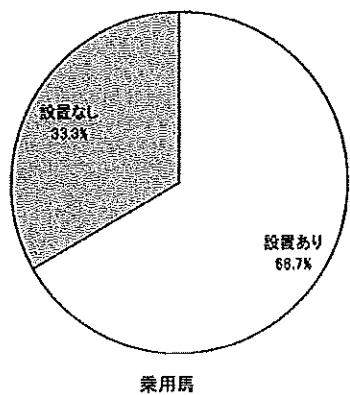
#### 4. 馬洗場の設置状況

乗用馬(在来馬を含む。)における馬洗場の設置状況は、66.7%が設置ありと回答された。

農用馬における馬洗場の設置状況は、71.3%が設置なしと回答された。

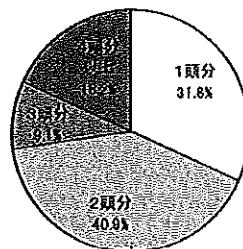
軽種馬における馬洗場の設置状況は、66.9%が設置なしと回答された。

項目	乗用馬		農用馬		軽種馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
設置あり	18	66.7%	23	28.8%	53	33.1%	94	35.2%
設置なし	9	33.3%	57	71.3%	107	66.9%	173	64.8%
合 計	27	100.0%	80	100.0%	160	100.0%	267	100.0%



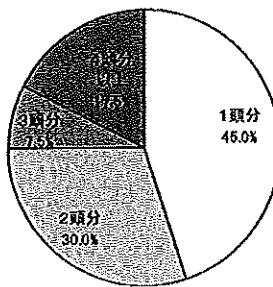
馬洗場の規模(軽種馬のみ)

項目	回答数(件)	割合
1頭分	14	31.8%
2頭分	18	40.9%
3頭分	4	9.1%
4頭分以上	8	18.2%
合 計	44	100.0%



お湯の出る馬洗場(軽種馬のみ)

項目	回答数(件)	割合
1頭分	18	45.0%
2頭分	12	30.0%
3頭分	3	7.5%
4頭分以上	7	17.5%
合 計	40	100.0%



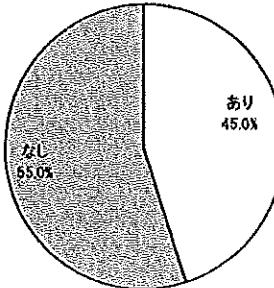
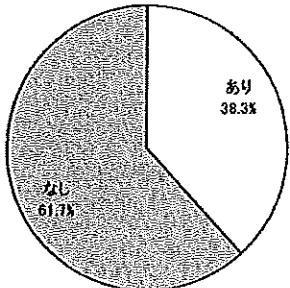
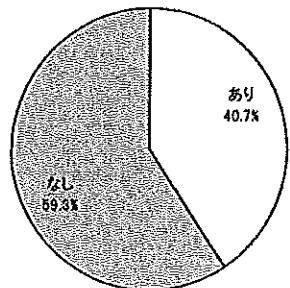
## 5. 犆舎の詰所の有無

乗用馬(在来馬を含む。)における詰所の有無は、59.3%がなしと回答された。

農用馬における詰所の有無は、61.7%がなしと回答された。

軽種馬における詰所の有無は、55.0%がなしと回答された。

項目	乗用馬		農用馬		軽種馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
あり	11	40.7%	31	38.3%	72	45.0%	114	42.5%
なし	16	59.3%	50	61.7%	88	55.0%	154	57.5%
合 計	27	100.0%	81	100.0%	160	100.0%	268	100.0%

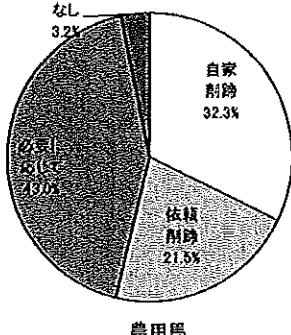
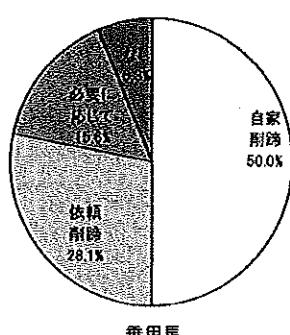


## 6. 削蹄は定期的に行っているか

乗用馬(在来馬を含む。)の削蹄は、15.6%が必要に応じて削蹄を行っており、その内訳は、50.0%が自家削蹄であった。

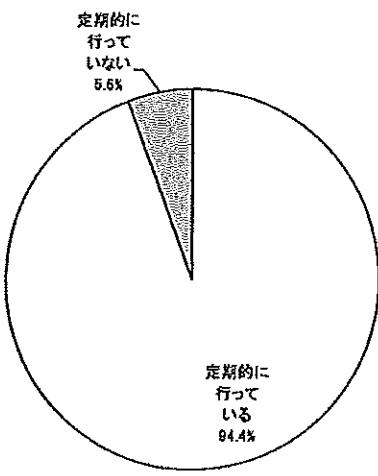
農用馬の削蹄は、43.0%が必要に応じて削蹄を行っており、その内訳は、32.3%が自家削蹄であった。

項目	乗用馬		農用馬	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
自家削蹄	16	50.0%	30	32.3%
依頼削蹄	9	28.1%	20	21.5%
必要に応じて	5	15.6%	40	43.0%
なし	2	6.3%	3	3.2%
合 計	32	100.0%	93	100.0%

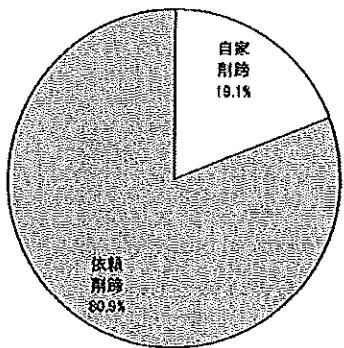


軽種馬の削蹄は、94.4%が定期的に削蹄を行っており、その内訳は、80.9%が依頼削蹄であった。

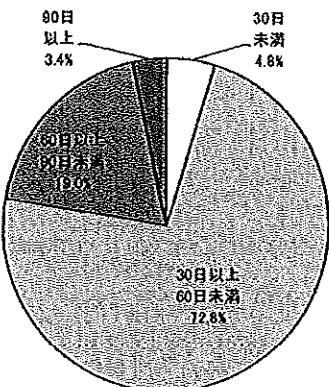
項目	回答数(件)	割合
定期的に行っている	151	94.4%
自家削蹄	30	19.1%
依頼削蹄	127	80.9%
小計	157	100.0%
削蹄		
30日未満	7	4.8%
30日以上60日未満	107	72.8%
60日以上90日未満	28	19.0%
90日以上	5	3.4%
小計	147	100.0%
装蹄		
30日未満	1	9.1%
30日以上60日未満	10	90.9%
60日以上90日未満	0	0.0%
90日以上	0	0.0%
小計	11	100.0%
定期的に行っていない	9	5.6%
合 計	160	100.0%



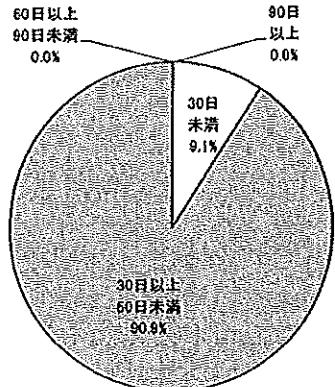
軽種馬 削蹄の実施



軽種馬 削蹄の実施



軽種馬 削蹄



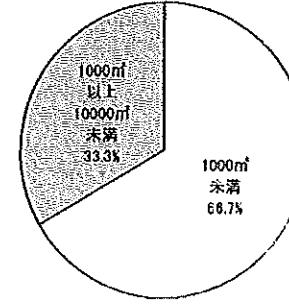
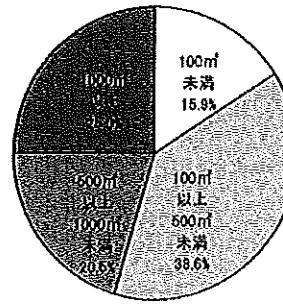
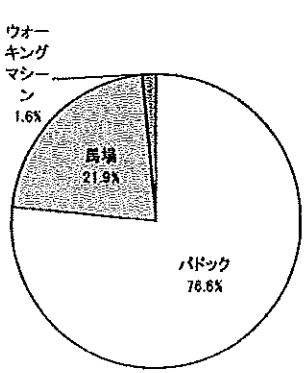
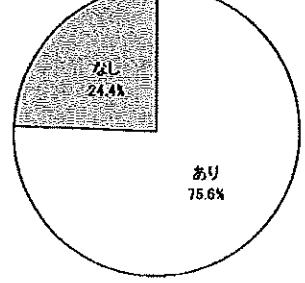
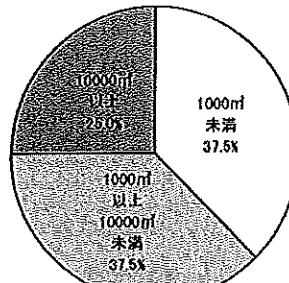
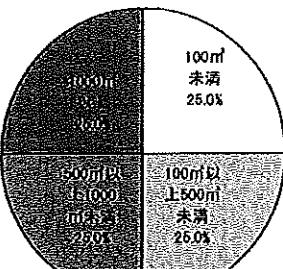
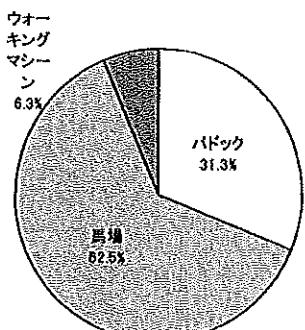
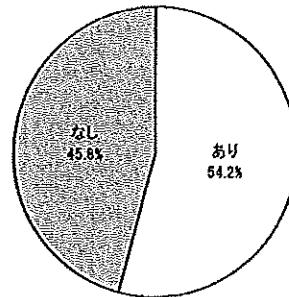
軽種馬 装蹄

## 7. 運動施設の有無

乗用馬(在来馬を含む。)の運動施設は、54.2%が運動施設を所有しており、その内訳は、62.5%が馬場と最も多く、パドックが31.2%、ウォーキングマシーンが6.3%であった。

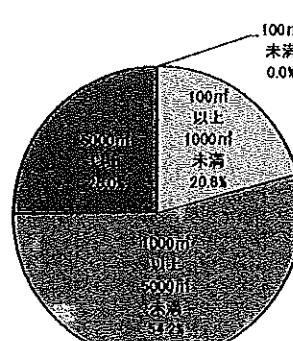
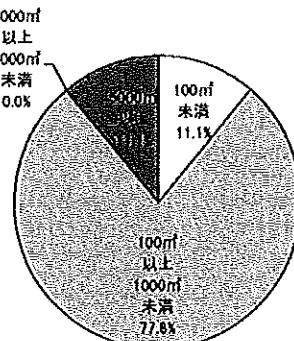
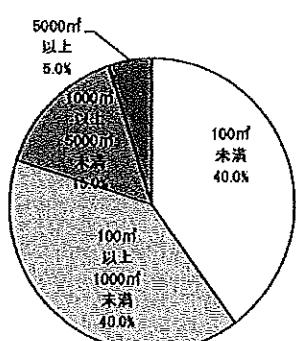
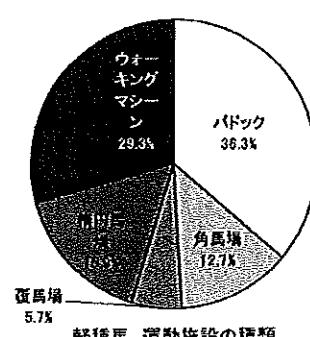
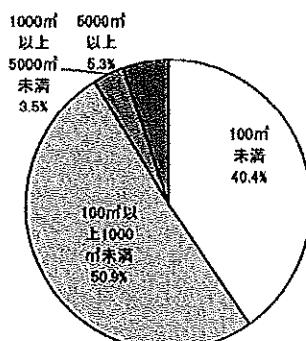
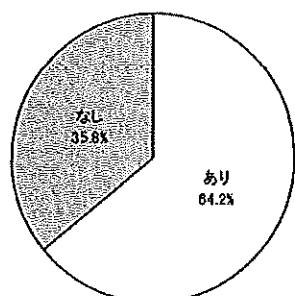
農用馬の運動施設は、75.6%が運動施設を所有しており、その内訳は、76.6%がパドックと最も多く、馬場が21.9%、ウォーキングマシーンが1.6%であった。

項目	乗用馬		農用馬	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
あり	13	54.2%	59	75.6%
パドック	5	31.3%	49	76.6%
100m <sup>2</sup> 未満	1	25.0%	7	15.9%
100m <sup>2</sup> 以上500m <sup>2</sup> 未満	1	25.0%	17	38.6%
500m <sup>2</sup> 以上1000m <sup>2</sup> 未満	1	25.0%	9	20.5%
1000m <sup>2</sup> 以上	1	25.0%	11	25.0%
小計	4	100.0%	44	100.0%
馬場	10	62.5%	14	21.9%
1000m <sup>2</sup> 未満	3	37.5%	8	66.7%
1000m <sup>2</sup> 以上10000m <sup>2</sup> 未満	3	37.5%	4	33.3%
10000m <sup>2</sup> 以上	2	25.0%	0	0.0%
小計	8	100.0%	12	100.0%
ウォーキングマシーン	1	6.3%	1	1.6%
小計	16	100.0%	64	100.0%
なし	11	45.8%	19	24.4%
合 計	24	100.0%	78	100.0%



軽種馬の運動施設は、64.2%が運動施設を所有しており、その内訳は、46.3%がパドックと最も多く、ウォーキングマシーンが37.4%、楕円馬場が20.3%、角馬場が16.3%、覆馬場が7.3%であった。

項目	回答数(件)	割合
あり	102	64.2%
パドック	57	46.3%
100m <sup>2</sup> 未満	23	40.4%
100m <sup>2</sup> 以上1000m <sup>2</sup> 未満	29	50.9%
1000m <sup>2</sup> 以上5000m <sup>2</sup> 未満	2	3.5%
5000m <sup>2</sup> 以上	3	5.3%
小計	57	100.0%
角馬場	20	16.3%
100m <sup>2</sup> 未満	8	40.0%
100m <sup>2</sup> 以上1000m <sup>2</sup> 未満	8	40.0%
1000m <sup>2</sup> 以上5000m <sup>2</sup> 未満	3	15.0%
5000m <sup>2</sup> 以上	1	5.0%
小計	20	100.0%
覆馬場	9	7.3%
100m <sup>2</sup> 未満	1	11.1%
100m <sup>2</sup> 以上1000m <sup>2</sup> 未満	7	77.8%
1000m <sup>2</sup> 以上5000m <sup>2</sup> 未満	0	0.0%
5000m <sup>2</sup> 以上	1	11.1%
小計	9	100.0%
楕円馬場	25	20.3%
100m <sup>2</sup> 未満	0	0.0%
100m <sup>2</sup> 以上1000m <sup>2</sup> 未満	5	20.8%
1000m <sup>2</sup> 以上5000m <sup>2</sup> 未満	13	54.2%
5000m <sup>2</sup> 以上	6	25.0%
小計	24	100.0%
ウォーキングマシーン	46	37.4%
小計	123	100.0%
なし	57	35.8%
合 計	159	100.0%

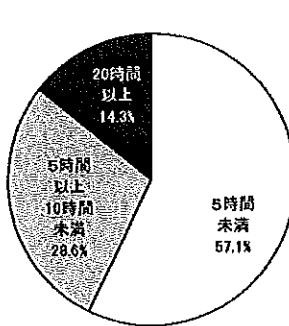
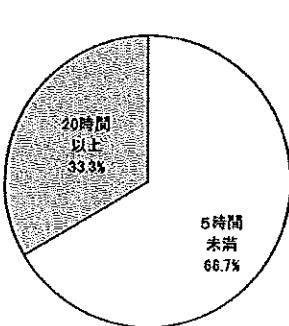
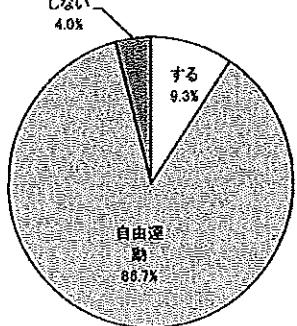
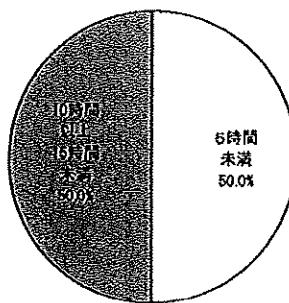
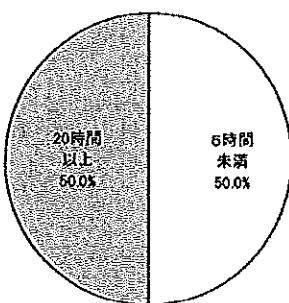
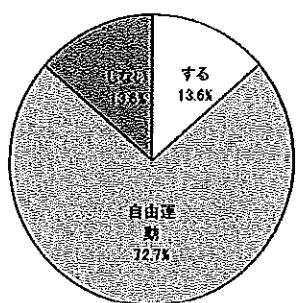


## 8. 馬の運動量

農用馬の運動量は、96.0%が運動をさせており、その内訳は、86.7%が自由運動をさせている。

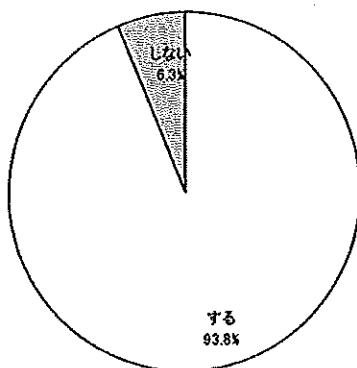
乗用馬(在来馬を含む。)の運動量は、86.3%が運動施設を所有しており、その内訳は、72.7%が自由運動をさせている。

項目	乗用馬		農用馬	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
する	3	10.0%	7	7.4%
夏期				
5時間未満	1	50.0%	2	66.7%
5時間以上10時間未満	0	0.0%	0	0.0%
10時間以上15時間未満	0	0.0%	0	0.0%
15時間以上20時間未満	0	0.0%	0	0.0%
20時間以上	1	50.0%	1	33.3%
小計	2	100.0%	3	100.0%
冬期				
5時間未満	1	50.0%	4	57.1%
5時間以上10時間未満	0	0.0%	2	28.6%
10時間以上15時間未満	1	50.0%	0	0.0%
15時間以上20時間未満	0	0.0%	0	0.0%
20時間以上	0	0.0%	1	14.3%
小計	2	100.0%	7	100.0%
自由運動	16	53.3%	65	68.4%
しない	3	10.0%	3	3.2%

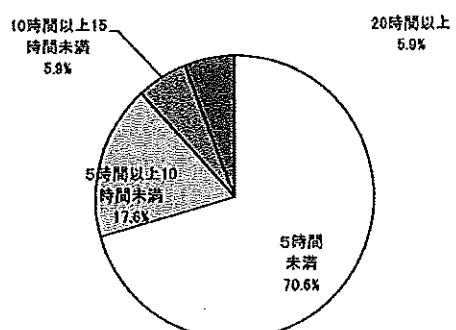


軽種馬の運動量は、93.8%が運動をさせている。

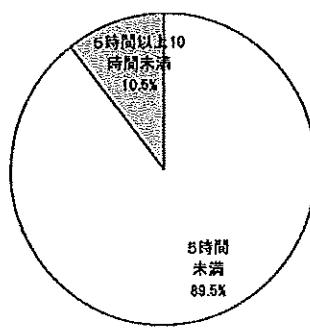
項目	回答数(件)	割合
する	150	64.7%
夏期		
5時間未満	12	70.6%
5時間以上10時間未満	3	17.6%
10時間以上15時間未満	1	5.9%
15時間以上20時間未満	0	0.0%
20時間以上	1	5.9%
小計	17	100.0%
冬期		
5時間未満	17	89.5%
5時間以上10時間未満	2	10.5%
10時間以上15時間未満	0	0.0%
15時間以上20時間未満	0	0.0%
20時間以上	0	0.0%
小計	19	100.0%
しない	10	4.3%
合 計	232	100.0%



軽種馬 運動の有無



軽種馬 夏期の運動時間

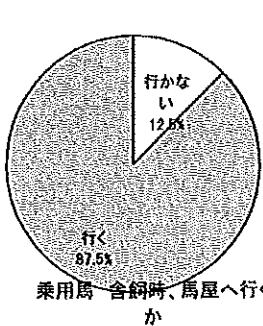


軽種馬 冬期の運動時間

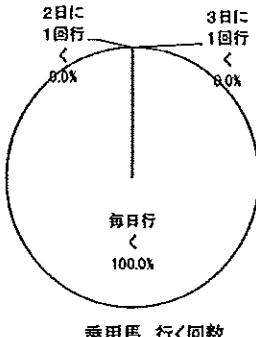
#### 9. 舎飼時、馬屋に行きますか

農用馬は、「給餌以外でもブラッシングなどのために行く」と最も多く、その内訳は、「毎日行く」が95.3%であった。  
乗用馬(在来馬を含む。)は、「給餌以外でもブラッシングなどのために行く」と最も多く、その内訳は、「毎日行く」が100%であった。

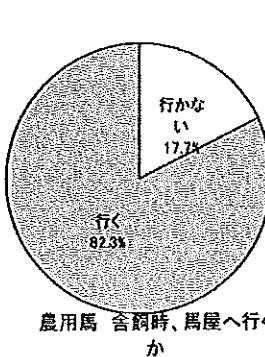
項目	乗用馬		農用馬	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
分娩時などの時を除いて 餌の給餌のとき以外は行 かない	3	12.5%	14	17.7%
給餌以外でもブラッシング などのために行く	21	87.5%	65	82.3%
毎日行く	21	100.0%	61	95.3%
2日に1回行く	0	0.0%	2	3.1%
3日に1回行く	0	0.0%	1	1.6%
小計	21	100.0%	64	100.0%
合 計	24	100.0%	79	100.0%



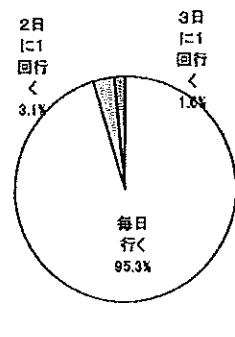
乗用馬 舎飼時、馬屋へ行く  
か



乗用馬 行く回数



農用馬 舎飼時、馬屋へ行く  
か

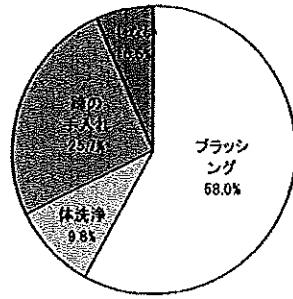
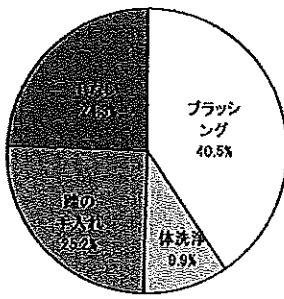
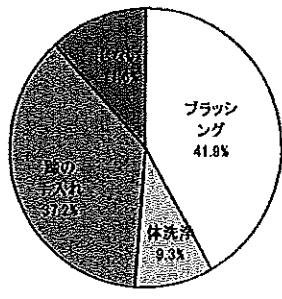


農用馬 行く回数

## 10. 馬の手入れ等に関して

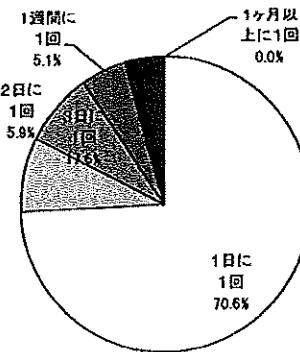
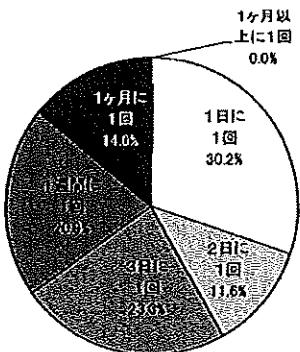
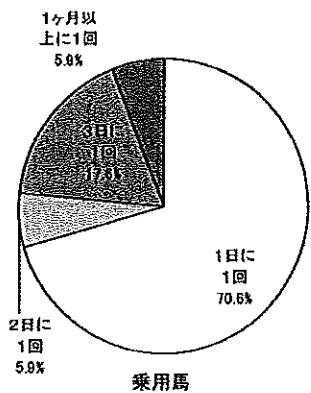
馬の手入れは、全体的に58.4%がブラッシングと最も多く、蹄の手入れが30.5%、体洗浄が11.1%であった。

項目	乗用馬		農用馬		軽種馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数	割合
ブラッシング	18	41.9%	45	40.5%	142	58.0%	205	58.4%
体洗浄	4	9.3%	11	9.9%	24	9.8%	39	11.1%
蹄の手入れ	16	37.2%	28	25.2%	63	25.7%	107	30.5%
しない	5	11.6%	27	24.3%	16	6.5%	48	13.7%
合 計	38	100.0%	84	100.0%	229	100.0%	351	100.0%



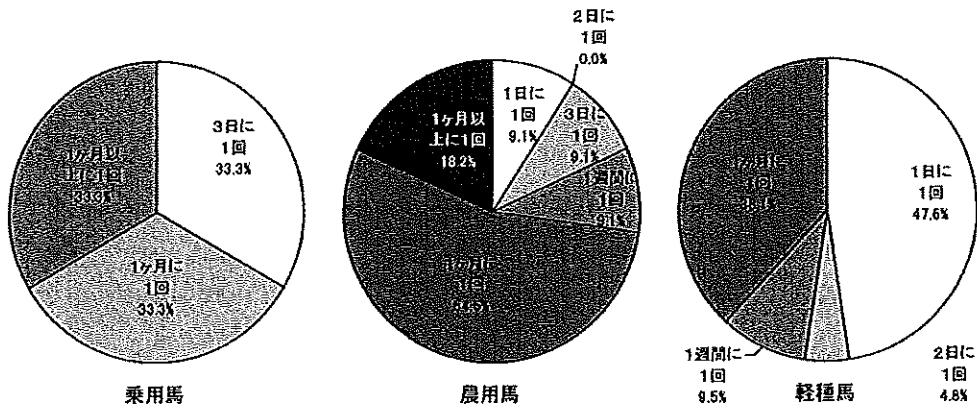
## ブラッシング

項目	乗用馬		農用馬		軽種馬	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
1日に1回	12	70.6%	13	30.2%	101	74.3%
2日に1回	1	5.9%	5	11.6%	11	8.1%
3日に1回	3	17.6%	10	23.3%	11	8.1%
1週間に1回	0	0.0%	9	20.0%	7	5.1%
1ヶ月に1回	0	0.0%	6	14.0%	6	4.4%
1ヶ月以上に1回	1	5.9%	0	0.0%	0	0.0%
合 計	17	100.0%	43	100.0%	136	100.0%



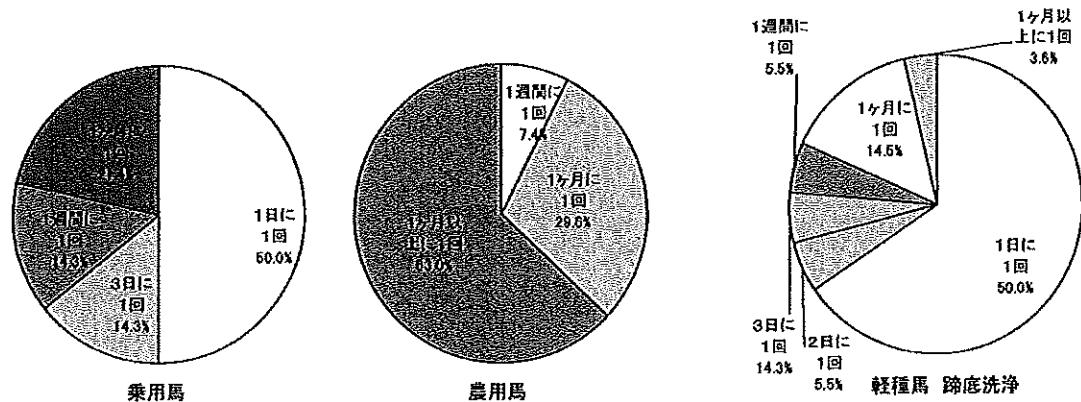
### 体洗浄

項目	乗用馬		農用馬		軽種馬	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
1日に1回	0	0.0%	1	9.1%	10	47.6%
2日に1回	0	0.0%	0	0.0%	1	4.8%
3日に1回	1	33.3%	1	9.1%	0	0.0%
1週間に1回	0	0.0%	1	9.1%	2	9.5%
1ヶ月に1回	1	33.3%	6	54.5%	8	38.1%
1ヶ月以上に1回	1	33.3%	2	18.2%	0	0.0%
合 計	3	100.0%	11	100.0%	21	100.0%



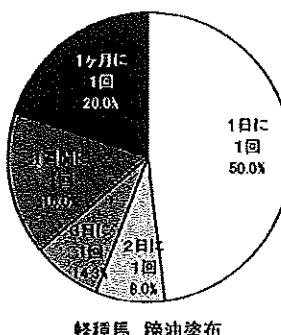
### 蹄の手入れ

項目	乗用馬		農用馬		軽種馬	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
1日に1回	7	50.0%	0	0.0%	36	65.5%
2日に1回	0	0.0%	0	0.0%	3	5.5%
3日に1回	2	14.3%	0	0.0%	3	5.5%
1週間に1回	2	14.3%	2	7.4%	3	5.5%
1ヶ月に1回	3	21.4%	8	29.6%	8	14.5%
1ヶ月以上に1回	0	0.0%	17	63.0%	2	3.6%
合 計	14	100.0%	27	100.0%	55	100.0%



### 蹄油塗布(軽種馬のみ)

項目	回答数(件)	割合
1日に1回	12	48.0%
2日に1回	2	8.0%
3日に1回	2	8.0%
1週間に1回	4	16.0%
1ヶ月に1回	5	20.0%
1ヶ月以上に1回	0	0.0%
合 計	25	100.0%



#### 11. 悪癖について

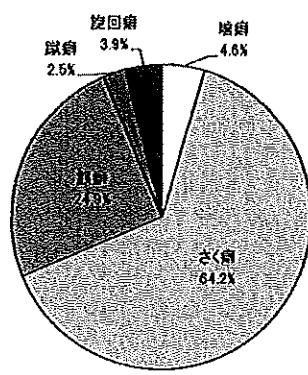
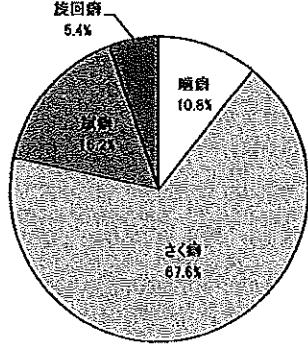
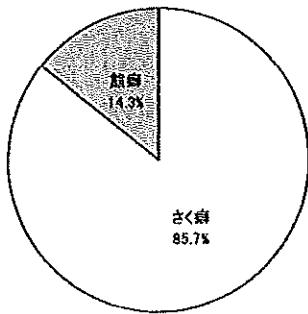
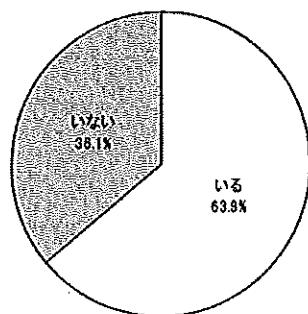
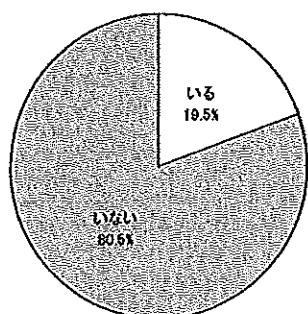
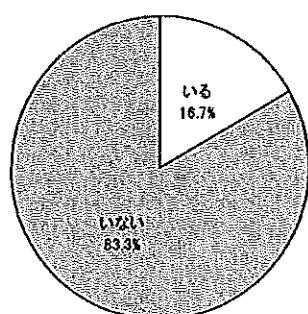
悪癖は、46.3%が行っており、内訳としてさく癖が65.0%と最も多く、次いで熊癖が21.9%であった。

品種区分別では、軽種馬はさく癖が64.2%と最も多く、次いで熊癖が24.9%であった。

農用馬は、さく癖が67.6%と最も多く、次いで崩癖が16.2%、噛癖が10.8%であった。

乗用馬(在来馬を含む。)は、さく癖が85.7%と最も多く、次いで熊癖が14.3%であった。

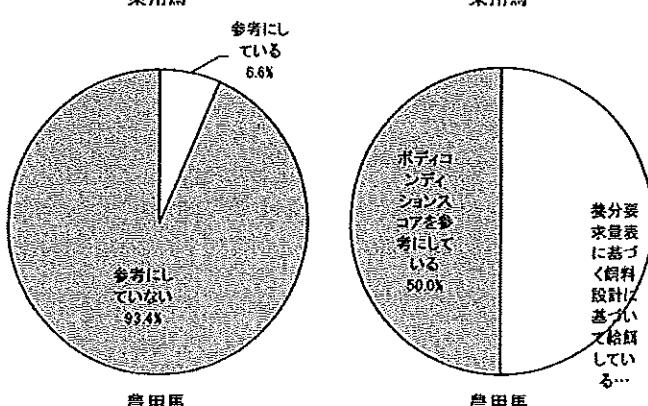
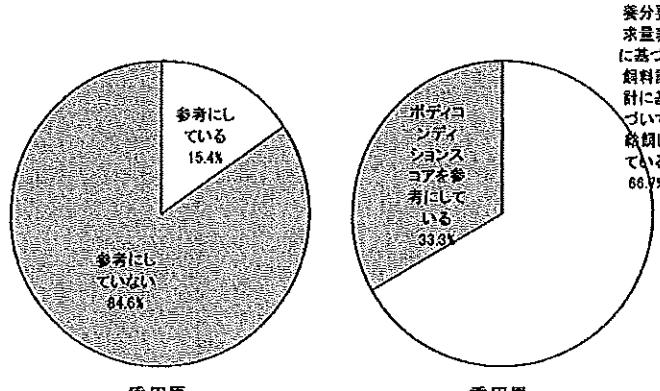
項目	乗用馬		農用馬		軽種馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
いる	4	16.7%	15	19.5%	101	63.9%	120	46.3%
嘔癖	0	0.0%	4	10.8%	13	4.6%	17	5.2%
さく癖	6	85.7%	25	67.6%	183	64.2%	214	65.0%
熊癖	1	14.3%	0	0.0%	71	24.9%	72	21.9%
崩癖	0	0.0%	6	16.2%	7	2.5%	13	4.0%
旋回癖	0	0.0%	2	5.4%	11	3.9%	13	4.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
小計	7	100.0%	37	100.0%	285	100.0%	329	100.0%
いない	20	83.3%	62	80.5%	57	36.1%	139	53.7%
合 計	24	100.0%	77	100.0%	158	100.0%	259	100.0%



12. 飼料の給餌にあたり「軽種馬飼養標準」を参考にしているか(乗用馬・農用馬のみ)

飼料給餌を行うにあたり、「軽種馬飼養標準」を参考にしていると回答があったものは、全体の8.8%であった。また、参考にしていないと回答があったものは、91.2%であった。

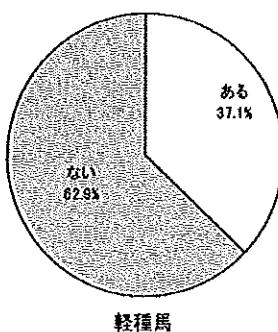
項目	乗用馬		農用馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
参考にしている	4	15.4%	5	6.6%	9	8.8%
養分要求量表に基づく 飼料設計に基づいて 給餌している	2	66.7%	3	50.0%	5	55.6%
ボディコンディションスコアを参考にしている	1	33.3%	3	50.0%	4	44.4%
小計	3	100.0%	6	100.0%	9	8.8%
参考にしていない	22	84.6%	71	93.4%	93	91.2%
合 計	26	100.0%	76	100.0%	102	100.0%



12. 飼料の給餌にあたり参考にしているもの(軽種馬のみ)

軽種馬では、飼料給餌を行うにあたり、参考にしているものがあると回答があったものは、全体の37.1%であった。また、参考にしていないと回答があったものは、62.9%であった。

項目	回答数(件)	割合
ある	59	37.1%
ない	100	62.9%
合 計	159	100.0%

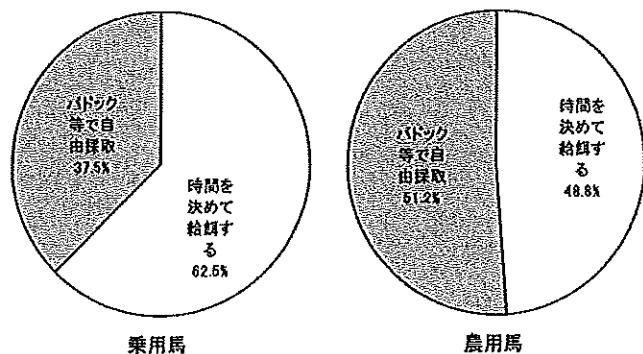


## 13. 給餌について

乾草給餌について(乗用馬・農用馬のみ)  
成馬

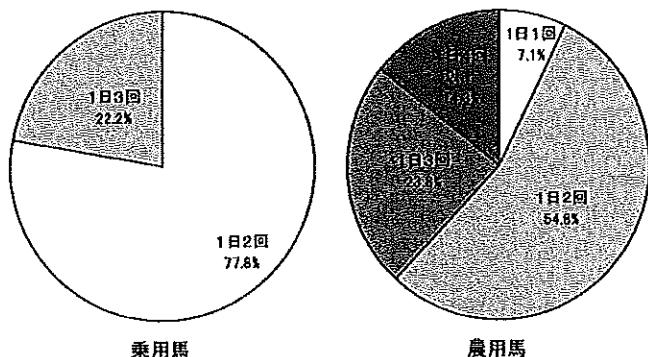
成馬に乾燥を給餌する際に、時間を決めて給餌する回答があったものは、全体の51.0%であった。また、パドック等での自由採取と回答があったものは、49.0%であった。

項目	乗用馬		農用馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
時間を決めて給餌する	10	62.5%	42	48.8%	52	51.0%
パドック等で自由採取	6	37.5%	44	51.2%	50	49.0%
合 計	16	100.0%	86	100.0%	102	100.0%



→時間を決めて給餌する場合

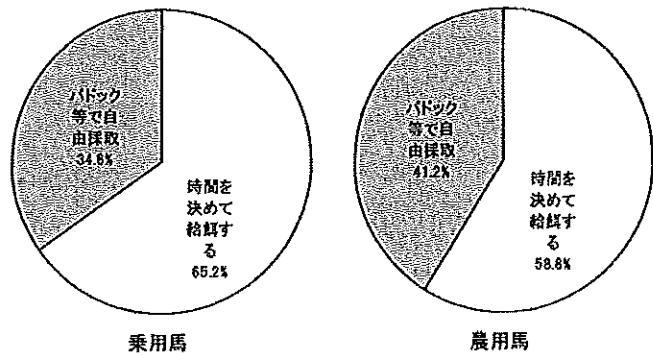
項目	乗用馬		農用馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
1日1回	0	0.0%	3	7.1%	3	5.9%
1日2回	7	77.8%	23	54.8%	30	58.8%
1日3回	2	22.2%	10	23.8%	12	23.5%
1日4回以上	0	0.0%	6	14.3%	6	11.8%
合 計	9	100.0%	42	100.0%	51	100.0%



### 育成馬(離乳後)

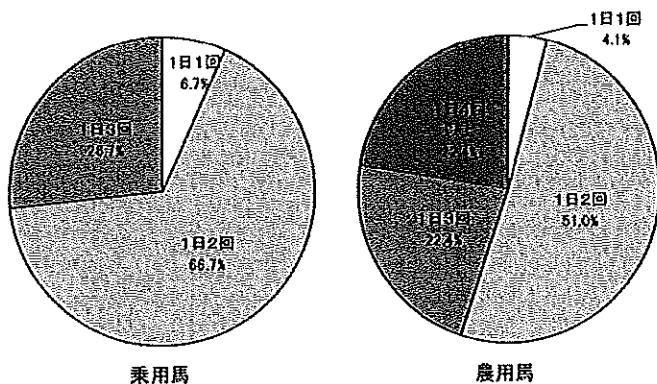
育成馬に乾燥を給餌する際に、時間を決めて給餌すると回答があったものは、全体の60.2%であった。また、パドック等での自由採取と回答があったものは、39.8%であった。

項目	乗用馬		農用馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
時間を決めて給餌する	15	65.2%	50	58.8%	65	60.2%
パドック等で自由採取	8	34.8%	35	41.2%	43	39.8%
合 計	23	100.0%	85	100.0%	108	100.0%



### →時間を決めて給餌する場合

項目	乗用馬		農用馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
1日1回	1	6.7%	2	4.1%	3	4.7%
1日2回	10	66.7%	25	51.0%	35	54.7%
1日3回	4	26.7%	11	22.4%	15	23.4%
1日4回以上	0	0.0%	11	22.4%	11	17.2%
合 計	15	100.0%	49	100.0%	64	100.0%



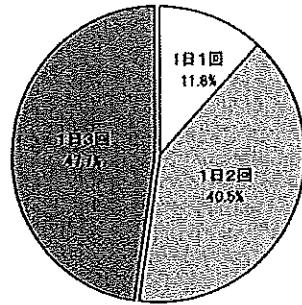
### 乾草給餌について(軽種馬のみ)

#### 繁殖馬

繁殖馬に乾燥を給餌する際に、47.7%が1日3回と最も多く、1日2回が40.5%、1日1回が11.8%であった。

→1日

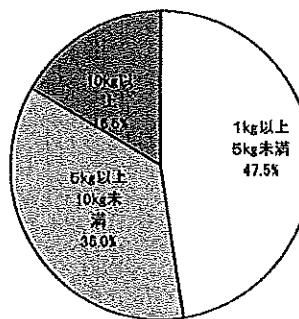
項目	回答数(件)	割合
1日1回	18	11.8%
1日2回	62	40.5%
1日3回	73	47.7%
合 計	153	100.0%



軽種馬

→1日量

項目	回答数(件)	割合
1kg未満	0	0.0%
1kg以上5kg未満	66	47.5%
5kg以上10kg未満	50	36.0%
10kg以上	23	16.5%
合 計	139	100.0%



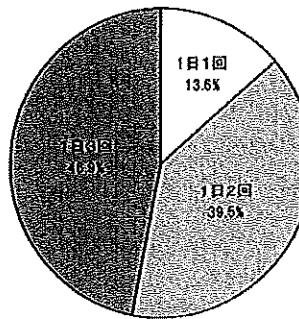
軽種馬

#### 育成馬(離乳後)

育成馬(離乳後)に乾燥を給餌する際に、46.9%が1日3回と最も多く、1日2回が39.5%、1日1回が13.6%であった。

→1日

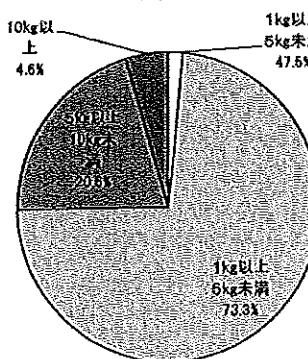
項目	回答数(件)	割合
1日1回	20	13.6%
1日2回	58	39.5%
1日3回	69	46.9%
合 計	147	100.0%



軽種馬

→1日量

項目	回答数(件)	割合
1kg未満	2	1.5%
1kg以上5kg未満	96	73.3%
5kg以上10kg未満	27	20.6%
10kg以上	6	4.6%
合 計	131	100.0%



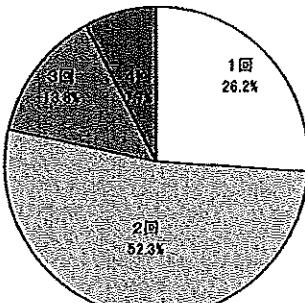
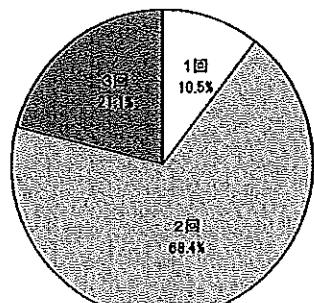
軽種馬

濃厚飼料について(乗用馬・農用馬のみ)

成馬に濃厚飼料を給餌する際に、56.0%が1日2回と最も多く、1日1回が22.6%、1日3回が15.5%、1日4回が6.0%であった。

成馬  
→1日

項目	乗用馬		農用馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
1回	2	10.5%	17	26.2%	19	22.6%
2回	13	68.4%	34	52.3%	47	56.0%
3回	4	21.1%	9	13.8%	13	15.5%
4回	0	0.0%	5	7.7%	5	6.0%
合 計	19	100.0%	65	100.0%	84	100.0%

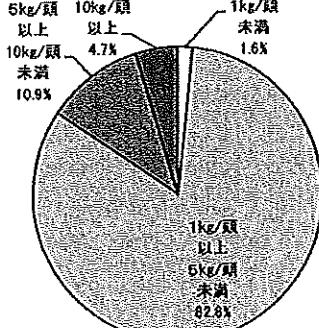
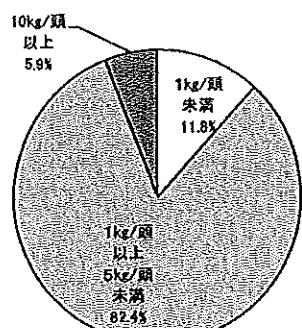


乗用馬

農用馬

→1回につき

項目	乗用馬		農用馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
1kg/頭未満	2	11.8%	1	1.6%	3	3.7%
1kg/頭以上5kg/頭未満	14	82.4%	53	82.8%	67	82.7%
5kg/頭以上10kg/頭未満	0	0.0%	7	10.9%	7	8.6%
10kg/頭以上	1	5.9%	3	4.7%	4	4.9%
合 計	17	100.0%	64	100.0%	81	100.0%



乗用馬

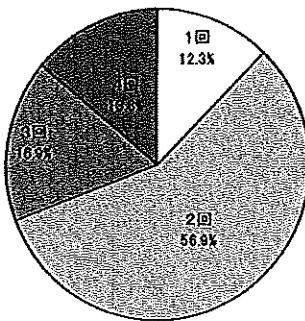
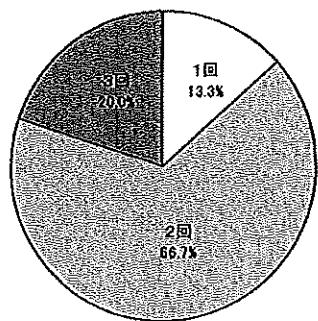
農用馬

### 育成馬(離乳後)

育成馬(離乳後)に濃厚飼料を給餌する際に、58.8%が1日2回と最も多く、1日3回が17.5%、1日1回が12.5%、1日4回が11.3%であった。

→1日

項目	乗用馬		農用馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
1回	2	13.3%	8	12.3%	10	12.5%
2回	10	66.7%	37	56.9%	47	58.8%
3回	3	20.0%	11	16.9%	14	17.5%
4回	0	0.0%	9	13.8%	9	11.3%
合 計	15	100.0%	65	100.0%	80	100.0%

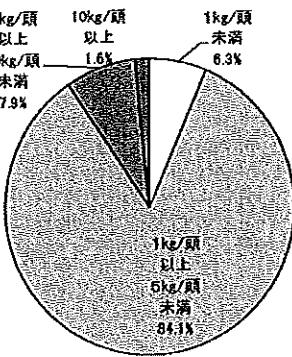
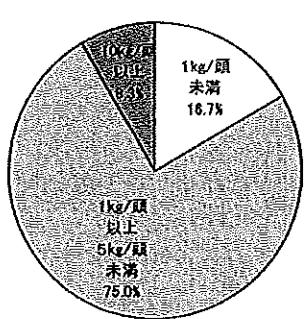


乗用馬

農用馬

→1回につき

項目	乗用馬		農用馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
1kg/頭未満	2	16.7%	4	6.3%	6	8.0%
1kg/頭以上5kg/頭未満	9	75.0%	53	84.1%	62	82.7%
5kg/頭以上10kg/頭未満	0	0.0%	5	7.9%	5	6.7%
10kg/頭以上	1	8.3%	1	1.6%	2	2.7%
合 計	12	100.0%	63	100.0%	75	100.0%



乗用馬

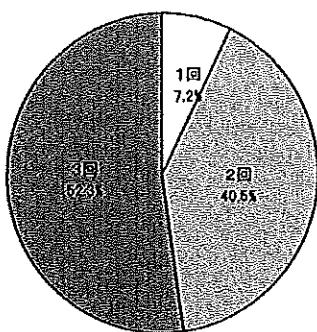
農用馬

### 濃厚飼料について(軽種馬のみ)

繁殖馬にエン麦を給餌する際に、52.3%が1日3回と最も多く、1日2回が40.5%、1日1回が7.2%であった。

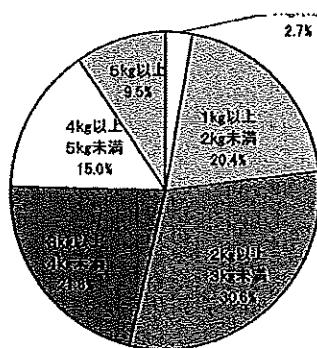
#### エン麦→1日

項目	回答数(件)	割合
1回	11	7.2%
2回	62	40.5%
3回	80	52.3%
合 計	153	100.0%



#### エン麦→1日量

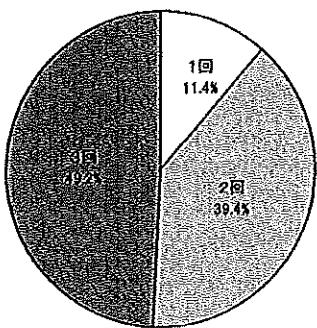
項目	回答数(件)	割合
1kg未満	4	2.7%
1kg以上2kg未満	30	20.4%
2kg以上3kg未満	45	30.6%
3kg以上4kg未満	32	21.8%
4kg以上5kg未満	22	15.0%
5kg以上	14	9.5%
合 計	147	100.0%



繁殖馬に配合飼料を給餌する際に、49.2%が1日3回と最も多く、1日2回が39.4%、1日1回が11.4%であった。

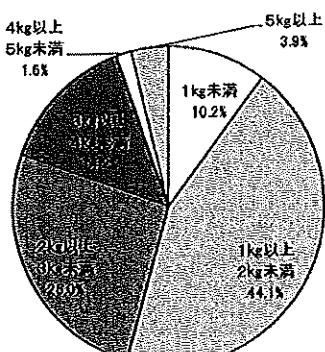
#### 配合飼料→1日

項目	回答数(件)	割合
1回	15	11.4%
2回	52	39.4%
3回	65	49.2%
合 計	132	100.0%



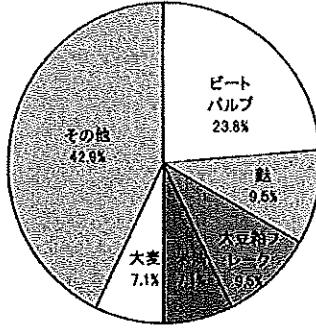
#### 配合飼料→1日量

項目	回答数(件)	割合
1kg未満	13	10.2%
1kg以上2kg未満	56	44.1%
2kg以上3kg未満	33	26.0%
3kg以上4kg未満	18	14.2%
4kg以上5kg未満	2	1.6%
5kg以上	5	3.9%
合 計	127	100.0%



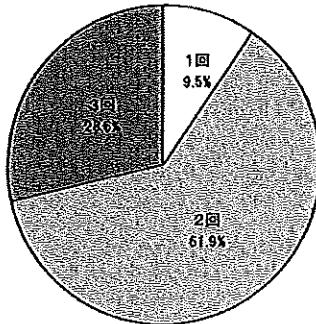
その他

項目	回答数(件)	割合
ビートバルブ	10	23.8%
麸	4	9.5%
大豆粕フレーク	4	9.5%
米油	3	7.1%
大麦	3	7.1%
その他	18	42.9%
合 計	42	100.0%



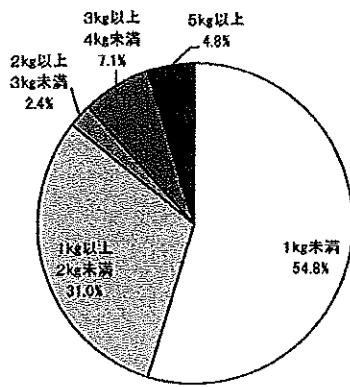
その他→1日

項目	回答数(件)	割合
1回	4	9.5%
2回	26	61.9%
3回	12	28.6%
合 計	42	100.0%



その他→1日量

項目	回答数(件)	割合
1kg未満	23	54.8%
1kg以上2kg未満	13	31.0%
2kg以上3kg未満	1	2.4%
3kg以上4kg未満	3	7.1%
4kg以上5kg未満	0	0.0%
5kg以上	2	4.8%
合 計	42	100.0%

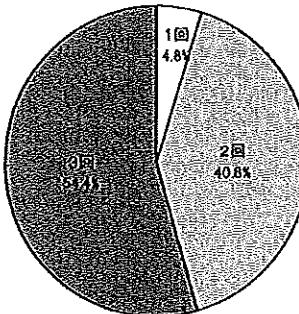


育成馬(離乳後)

育成馬(離乳後)にエン麦を給餵する際に、54.4%が1日3回と最も多く、1日2回が40.8%、1日1回が4.8%であった。

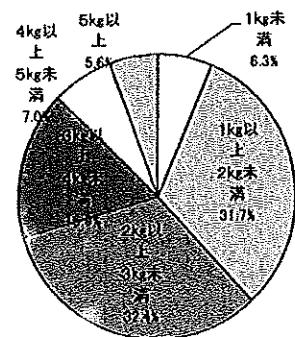
エン麦→1日

項目	回答数(件)	割合
1回	7	4.8%
2回	60	40.8%
3回	80	54.4%
合 計	147	100.0%



エン麦→1日量

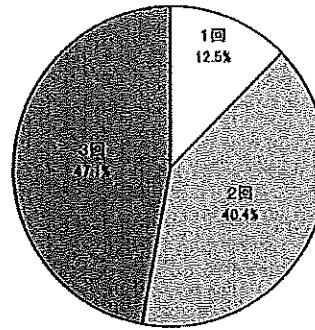
項目	回答数(件)	割合
1kg未満	9	6.3%
1kg以上2kg未満	45	31.7%
2kg以上3kg未満	46	32.4%
3kg以上4kg未満	24	16.9%
4kg以上5kg未満	10	7.0%
5kg以上	8	5.6%
合 計	142	100.0%



育成馬に配合飼料を給餌する際に、47.1%が1日3回と最も多く、1日2回が40.4%、1日1回が12.5%であった。

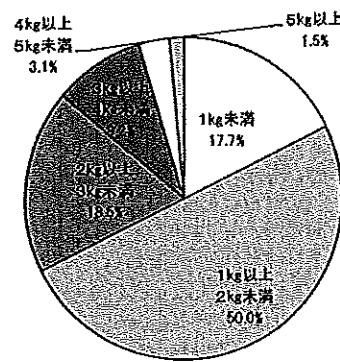
#### 配合飼料→1日

項目	回答数(件)	割合
1回	17	12.5%
2回	55	40.4%
3回	64	47.1%
合 計	136	100.0%



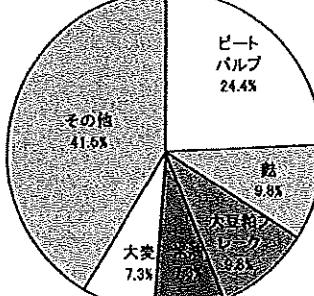
#### 配合飼料→1日量

項目	回答数(件)	割合
1kg未満	23	17.7%
1kg以上2kg未満	65	50.0%
2kg以上3kg未満	24	18.5%
3kg以上4kg未満	12	9.2%
4kg以上5kg未満	4	3.1%
5kg以上	2	1.5%
合 計	130	100.0%



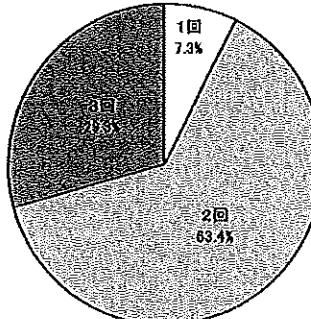
#### その他

項目	回答数(件)	割合
ビートパルプ	10	24.4%
麸	4	9.8%
大豆粕ブレーカー	4	9.8%
米油	3	7.3%
大麦	3	7.3%
その他	17	41.5%
合 計	41	100.0%



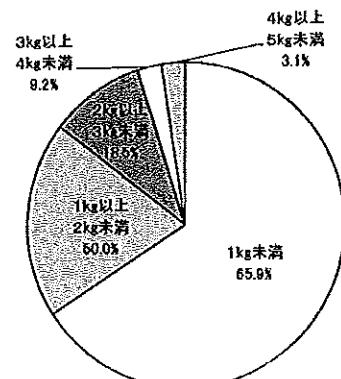
#### その他→1日

項目	回答数(件)	割合
1回	3	7.3%
2回	26	63.4%
3回	12	29.3%
合 計	41	100.0%



#### その他→1日量

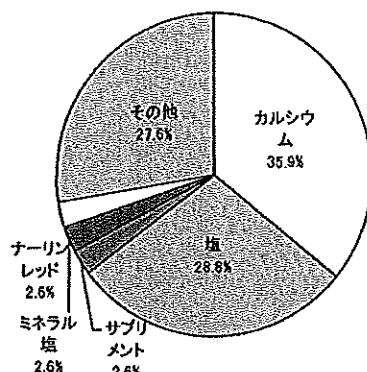
項目	回答数(件)	割合
1kg未満	27	65.9%
1kg以上2kg未満	8	19.5%
2kg以上3kg未満	4	9.8%
3kg以上4kg未満	1	2.4%
4kg以上5kg未満	1	2.4%
5kg以上	0	0.0%
合 計	41	100.0%



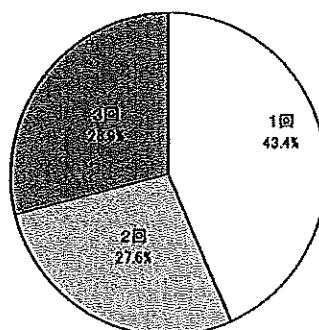
#### 飼料添加物について

繁殖馬に飼料添加物を加える際に、35.9%がカルシウムと最も多く、塩が28.8%、その他が27.6%、サプリメント、ミネラル塩、ナーリンレッドが2.6%であった。

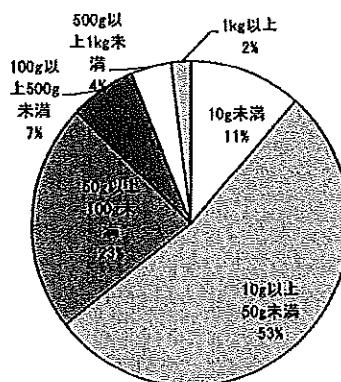
項目	回答数(件)	割合
カルシウム	56	35.9%
塩	45	28.8%
サプリメント	4	2.6%
ミネラル塩	4	2.6%
ナーリンレッド	4	2.6%
その他	43	27.6%
合 計	156	100.0%



項目	回答数(件)	割合
1回	66	43.4%
2回	42	27.6%
3回	44	28.9%
合 計	152	100.0%



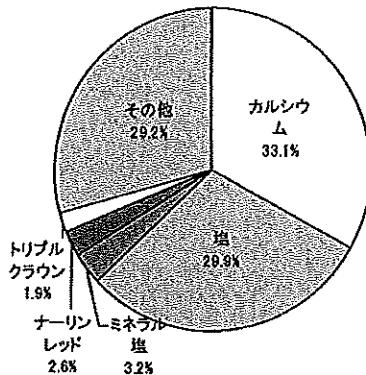
項目	回答数(件)	割合
10g未満	17	11.4%
10g以上50g未満	79	53.0%
50g以上100g未満	34	22.8%
100g以上500g未満	10	6.7%
500g以上1kg未満	6	4.0%
1kg以上	3	2.0%
合 計	149	100.0%



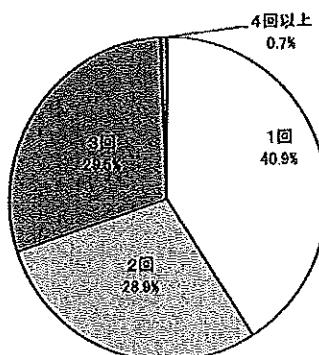
### 育成馬(離乳後)

育成馬(離乳後)に飼料添加物を加える際に、33.1%がカルシウムと最も多く、塩が29.9%、その他が29.2%、ミネラル塩が3.2%、ナーリンレッドが2.6%、トリプルクラウン1.9%であった。

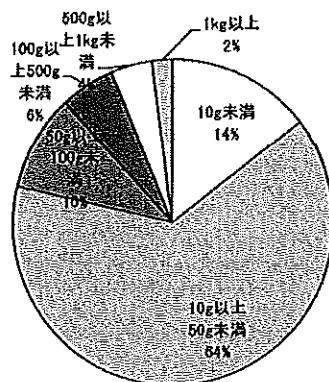
項目	回答数(件)	割合
カルシウム	51	33.1%
塩	46	29.9%
ミネラル塩	5	3.2%
ナーリンレッド	4	2.6%
トリプルクラウン	3	1.9%
その他	45	29.2%
合 計	154	100.0%



項目	回答数(件)	割合
1回	61	41.2%
2回	43	29.1%
3回	44	29.7%
4回以上	1	0.7%
合 計	148	100.0%



項目	回答数(件)	割合
10g未満	21	14.5%
10g以上50g未満	93	64.1%
50g以上100g未満	14	9.7%
100g以上500g未満	8	5.5%
500g以上1kg未満	6	4.1%
1kg以上	3	2.1%
合 計	145	100.0%



## VII 仔馬（生後6ヶ月頃まで）の飼養管理について

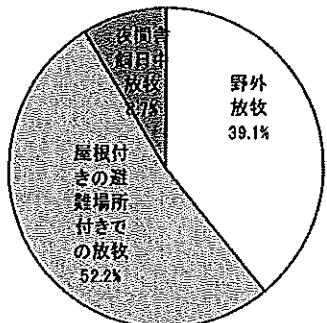
### 1. 離乳前（哺育期）について

#### (1) 仔馬の主な飼養方法

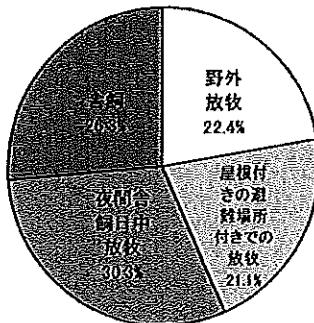
農用馬における飼養方法は、30.3%が夜間舎飼日中放牧と最も多く、舎飼が26.3%、野外放牧が22.4%、屋根付き避難場所付きでの放牧が21.1%であった。

乗用馬（在来馬を含む。）における飼養方法は、52.2%が屋根付き避難場所付きでの放牧と最も多く、野外放牧が39.1%、夜間舎飼日中放牧が8.7%であった。

項目	乗用馬		農用馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
野外放牧	9	39.1%	17	22.4%	26	26.3%
屋根付きの避難場所付きでの放牧	12	52.2%	16	21.1%	28	28.3%
夜間舎飼日中放牧	2	8.7%	23	30.3%	25	25.3%
舎飼	0	0.0%	20	26.3%	20	20.2%
合 計	23	100.0%	76	100.0%	99	100.0%

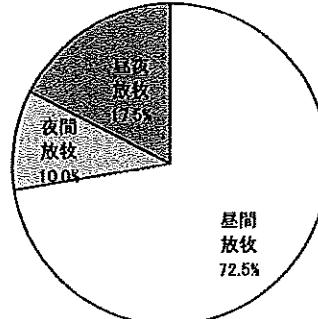


乗用馬



農用馬

軽種馬における飼養方法は、72.5%が昼間放牧と最も多く、昼夜放牧が17.5%、夜間放牧が10.0%であった。



軽種馬

項目	回答数(件)	割合
昼間放牧	116	72.5%
夜間放牧	16	10.0%
昼夜放牧	28	17.5%
合 計	160	100.0%

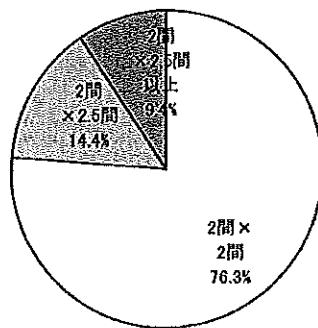
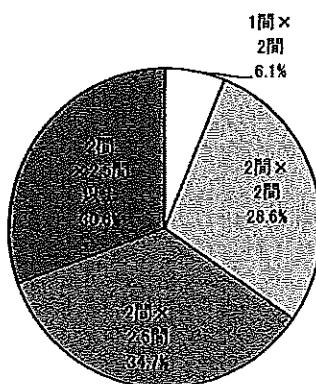
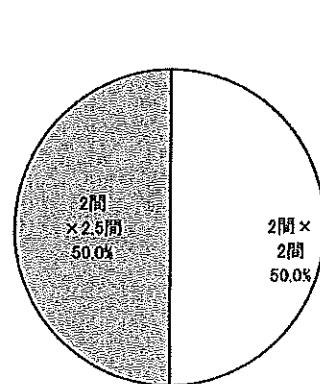
## (2) 親を含めた1頭当たりの馬房の広さ

軽種馬における1馬房の広さは、76.3%が2間×2.5間と最も多く、2間×2.5間以上が14.4%、2間×2.5間以上が9.4%であった。

農用馬における1馬房の広さは、34.7%が2間×2間と最も多く、2間×2.5間が30.6%、2間×2間が28.6%、1間×2間が6.1%であった。

乗用馬（在来馬を含む。）における1馬房の広さは、50.0%が2間×2間と2間×2.5間の回答があった。

項目	乗用馬		農用馬		軽種馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数	割合
1間×2間	0	0.0%	3	6.1%	0	0.0%	3	1.4%
2間×2間	1	50.0%	14	28.6%	122	76.3%	137	64.9%
2間×2.5間	1	50.0%	17	34.7%	23	14.4%	41	19.4%
2間×2.5間以上	0	0.0%	15	30.6%	15	9.4%	30	14.2%
合 計	2	100.0%	49	100.0%	160	100.0%	211	100.0%



乗用馬

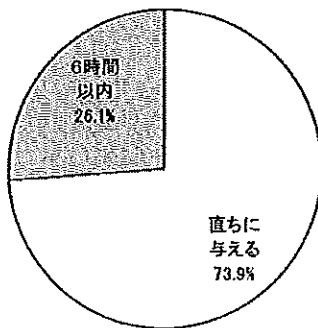
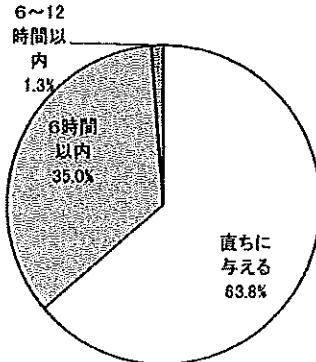
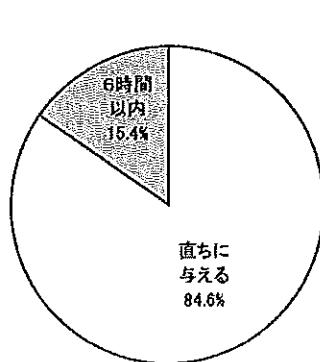
農用馬

軽種馬

## (3) 初めて仔馬に初乳を飲ませるのは、生後何時間後くらいか

初乳は、全体的に71.9%が直ちに与えると最も多く、6時間以内が27.7%であった。

項目	乗用馬		農用馬		軽種馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
直ちに与える	22	84.6%	51	63.8%	119	73.9%	192	71.9%
6時間以内	4	15.4%	28	35.0%	42	26.1%	74	27.7%
6~12時間以内	0	0.0%	1	1.3%	0	0.0%	1	0.4%
12時間以上たってから	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合 計	26	100.0%	80	100.0%	161	100.0%	267	100.0%



乗用馬

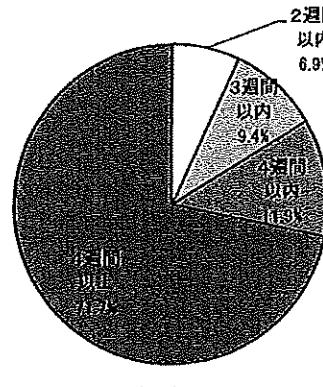
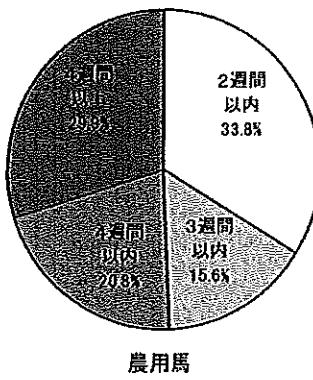
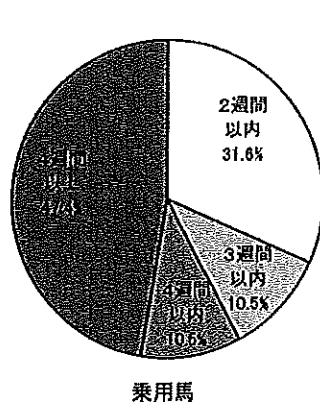
農用馬

軽種馬

(4) 仔馬に粗飼料を給与するのは、生後いつ頃からか

粗飼料の給与は、全体的に57.3%が4週間以上と最も多く、4週間以内が27.7%、2週間以内

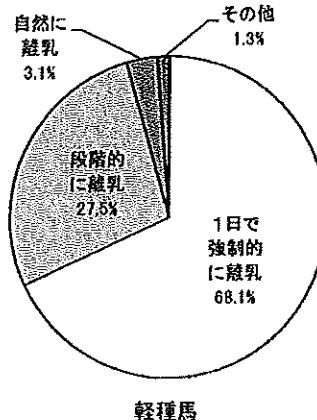
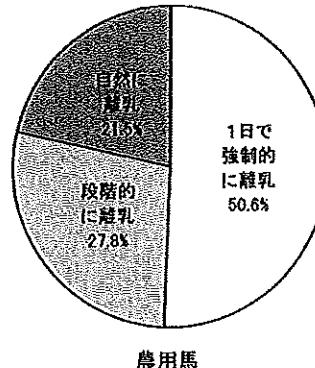
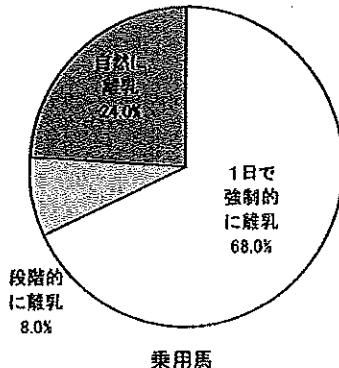
項目	乗用馬		農用馬		軽種馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
2週間以内	6	31.6%	26	33.8%	11	6.9%	43	16.9%
3週間以内	2	10.5%	12	15.6%	15	9.4%	29	11.4%
4週間以内	2	10.5%	16	20.8%	19	11.9%	37	14.5%
4週間以上	9	47.4%	23	29.9%	114	71.7%	146	57.3%
合 計	19	100.0%	77	100.0%	159	100.0%	255	100.0%



(5) 離乳で一番多く用いるやり方

離乳は、全体的に62.9%が1日で強制的に離乳と最も多く、段階的に離乳が25.8%、自然に離乳が10.6%であった。

項目	乗用馬		農用馬		軽種馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数	割合
1日で強制的に離乳	17	68.0%	40	50.6%	109	68.1%	166	62.9%
段階的に離乳	2	8.0%	22	27.8%	44	27.5%	68	25.8%
自然に離乳	6	24.0%	17	21.5%	5	3.1%	28	10.6%
その他	0	0.0%	0	0.0%	2	1.3%	2	0.8%
合 計	25	100.0%	79	100.0%	160	100.0%	264	100.0%



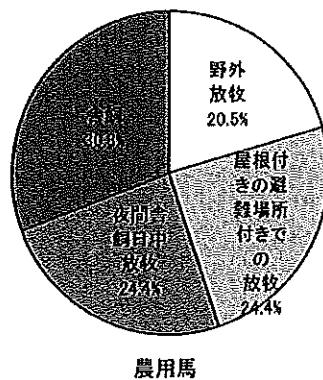
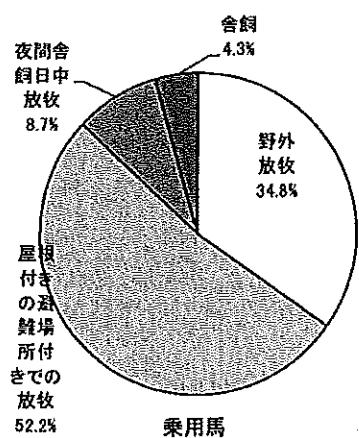
## 2. 離乳後について

### (1) 仔馬の主な飼養方法

農用馬における飼養方法は、30.8%が舎飼と最も多く、次いで夜間舎飼日中放牧と屋根付き避難場所付きでの放牧が24.4%、野外放牧が20.5%であった。

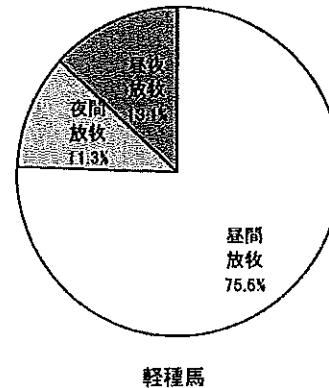
乗用馬（在来馬を含む。）における飼養方法は、52.2%が屋根付き避難場所付きでの放牧と最も多く、野外放牧が34.8%、夜間舎飼日中放牧が8.7%、舎飼が4.3%であった。

項目	乗用馬		農用馬	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
野外放牧	8	34.8%	16	20.5%
屋根付きの避難場所付きでの放牧	12	52.2%	19	24.4%
夜間舎飼日中放牧	2	8.7%	19	24.4%
舎飼	1	4.3%	24	30.8%
合 計	23	100.0%	78	100.0%



軽種馬における飼養方法は、75.6%が昼間放牧と最も多く、昼夜放牧が13.1%、夜間放牧が11.3%であった。

項目	回答数(件)	割合
昼間放牧	121	75.6%
夜間放牧	18	11.3%
昼夜放牧	21	13.1%
合 計	160	100.0%



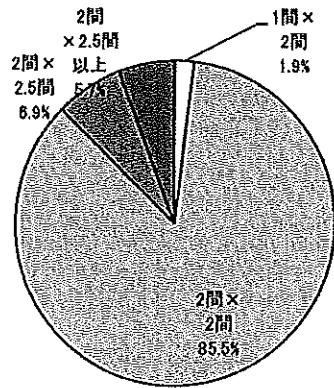
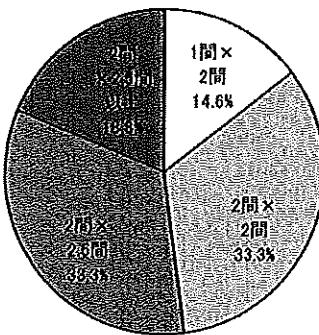
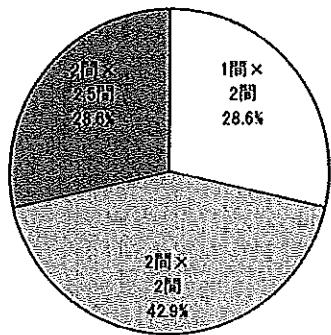
## (2)1頭当たりの馬房の広さ

軽種馬における1馬房の広さは、85.5%が2間×2.5間と最も多く、2間×2.5間以上が6.9%、2間×2.5間以上が5.7%であった。

農用馬における1馬房の広さは、33.3%が2間×2間と2間×2.5間並び最も多く、2間×2.5間以上が18.8%、1間×2間が14.6%であった。

乗用馬（在来馬を含む。）における1馬房の広さは、42.9%が2間×2間、1間×2間と2間×2.5間が28.6%であった。

項目	乗用馬		農用馬		軽種馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数	割合
1間×2間	2	28.6%	7	14.6%	3	1.9%	12	5.6%
2間×2間	3	42.9%	16	33.3%	136	85.5%	155	72.4%
2間×2.5間	2	28.6%	16	33.3%	11	6.9%	29	13.6%
2間×2.5間以上	0	0.0%	9	18.8%	9	5.7%	18	8.4%
合 計	7	100.0%	48	100.0%	159	100.0%	214	100.0%



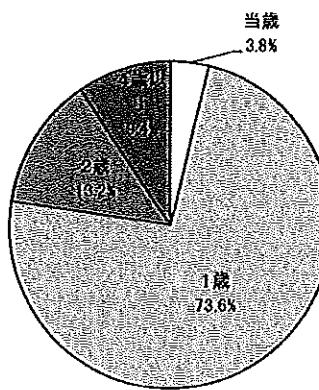
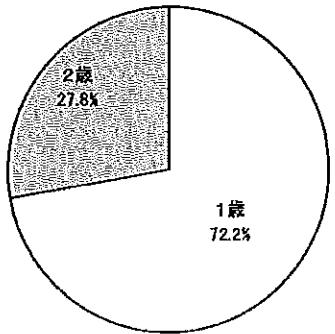
乗用馬

農用馬

軽種馬

## (3)去勢を行う場合、1番多い事例（乗用馬・農用馬のみ）

項目	乗用馬		農用馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
当歳	0	0.0%	2	3.8%	2	2.8%
1歳	13	72.2%	39	73.6%	52	73.2%
2歳	5	27.8%	7	13.2%	12	16.9%
3歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
4歳以上	0	0.0%	5	9.4%	5	7.0%
合 計	18	100.0%	53	100.0%	71	100.0%



乗用馬

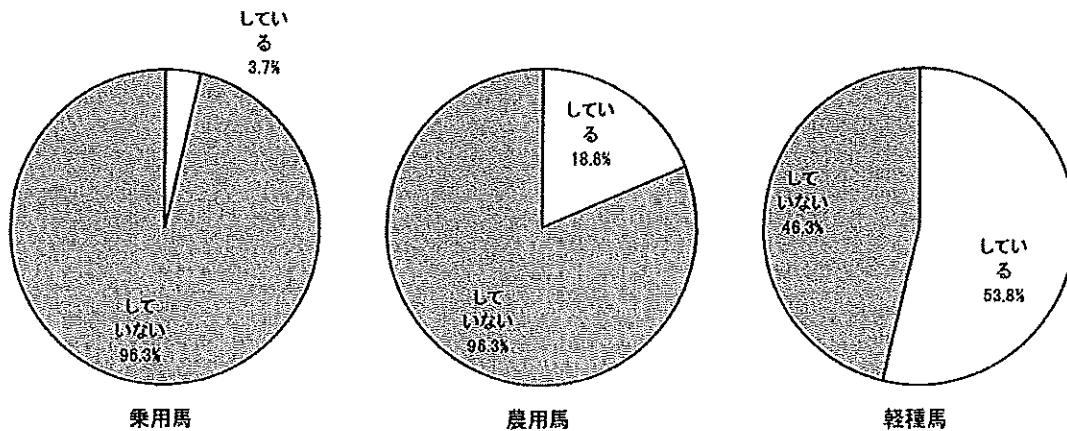
農用馬

## VII 繁殖牝馬の管理について

### 1. 分娩前の特別な運動

分娩前の特別な運動は、ほとんどが実施しておらず、乗用馬（在来馬を含む。）は3.7%、農用馬は18.8%、軽種馬は53.8%が実施している。

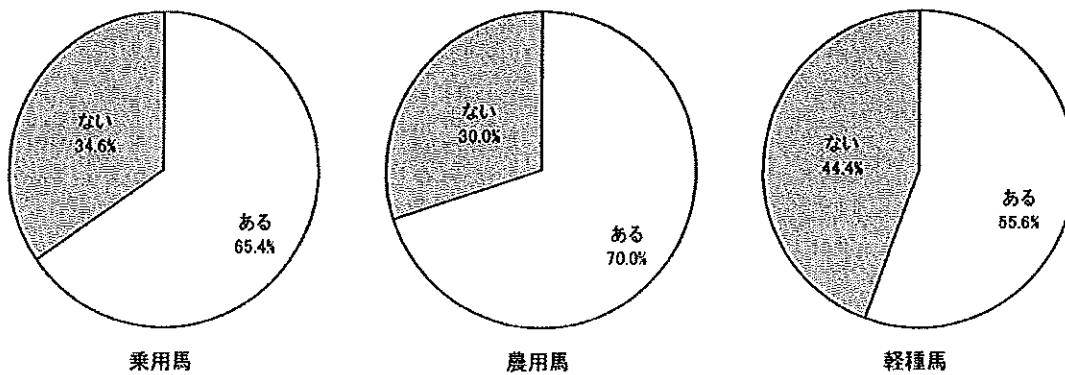
項目	乗用馬		農用馬		軽種馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
している	1	3.7%	15	18.8%	86	53.8%	102	38.2%
していない	26	96.3%	65	81.3%	74	46.3%	165	61.8%
合 計	27	100.0%	80	100.0%	160	100.0%	267	100.0%



### 2. 分娩のための特別な馬房

分娩前の特別な馬房は、乗用馬（在来馬を含む。）は65.4%、農用馬は70.0%、軽種馬は55.6%があると回答された。

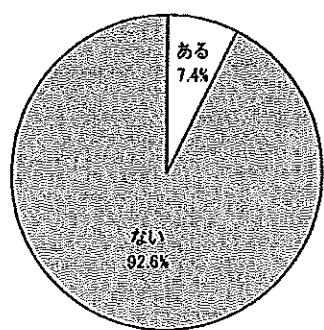
項目	乗用馬		農用馬		軽種馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
ある	17	65.4%	56	70.0%	89	55.6%	162	60.9%
ない	9	34.6%	24	30.0%	71	44.4%	104	39.1%
合 計	26	100.0%	80	100.0%	160	100.0%	266	100.0%



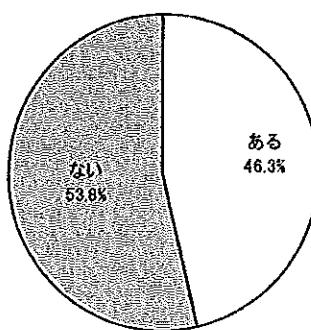
### 3. 分娩を監視するモニター

分娩を監視するモニターの設置は、乗用馬（在来馬を含む。）は7.4%、農用馬は46.3%、軽種馬は80.6%があると回答された。

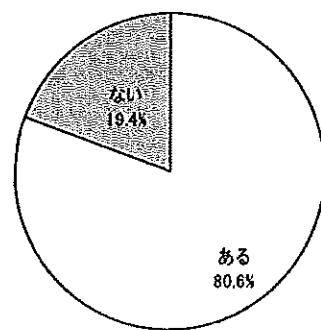
項目	乗用馬		農用馬		軽種馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
ある	2	7.4%	37	46.3%	129	80.6%	168	62.9%
ない	25	92.6%	43	53.8%	31	19.4%	99	37.1%
合 計	27	100.0%	80	100.0%	160	100.0%	267	100.0%



乗用馬



農用馬



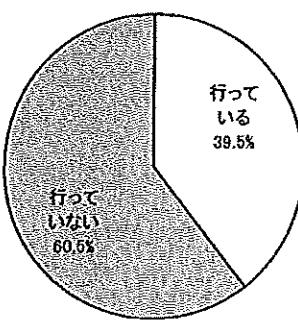
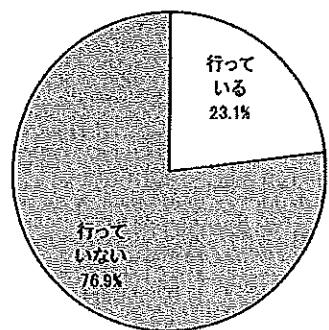
軽種馬

## VII その他

### 1. 犀舎の暑熱対策

犀舎の暑熱対策は、乗用馬（在来馬を含む。）23.1%、農用馬39.5%が暑熱対策を行っている。

項目	乗用馬		農用馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
行っている	6	23.1%	32	39.5%	38	35.5%
行っていない	20	76.9%	49	60.5%	69	64.5%
合 計	26	100.0%	81	100.0%	107	100.0%

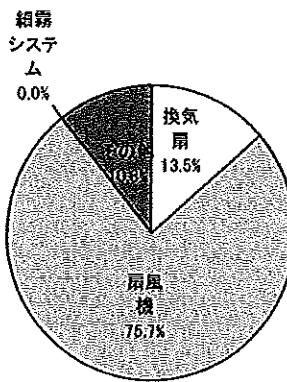


乗用馬

農用馬

項目	回答数(件)	割合
行っている	37	23.1%
換気扇	5	13.5%
扇風機	28	75.7%
細霧システム	0	0.0%
その他	4	10.8%
小計	37	100.0%
行っていない	123	76.9%
合 計	160	100.0%

犀舎の暑熱対策は、軽種馬23.1%が暑熱対策を行っており、内訳は、75.7%が扇風機と最も多く、次いで換気扇が13.5%であった。

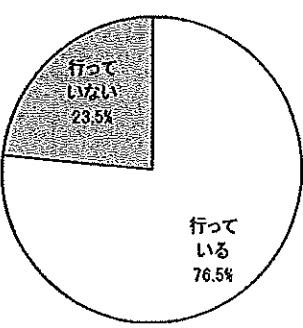
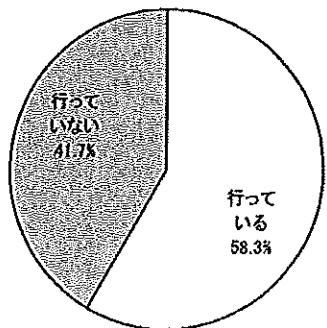


軽種馬

## 2. 害虫駆除

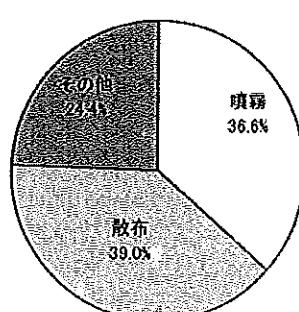
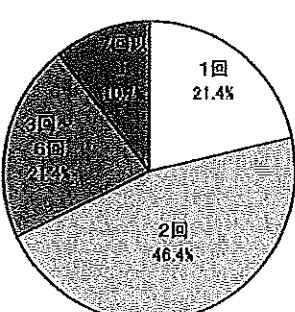
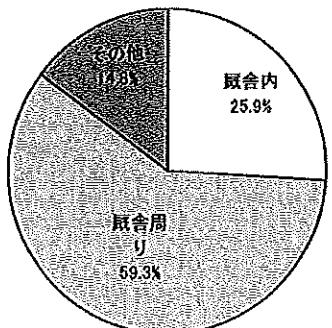
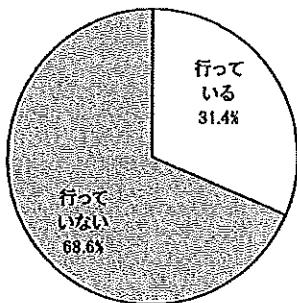
害虫駆除は、乗用馬（在来馬を含む。）58.3%、農用馬76.5%が害虫駆除を行っている。

項目	乗用馬		農用馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
行っている	14	58.3%	62	76.5%	76	72.4%
行っていない	10	41.7%	19	23.5%	29	27.6%
合 計	24	100.0%	81	100.0%	105	100.0%



項目	回答数(件)	割合
行っている	50	31.4%
範囲		
厩舎内	14	25.9%
厩舎周り	32	59.3%
その他	8	14.8%
小計	54	100.0%
回数		
1回	6	21.4%
2回	13	46.4%
3回～6回	6	21.4%
7回以上	3	10.7%
小計	28	100.0%
消毒方法		
噴霧	15	36.6%
散布	16	39.0%
その他	10	24.4%
小計	41	100.0%
行っていない	109	68.6%
合 計	159	100.0%

害虫駆除は、軽種馬31.4%が害虫駆除を行っている。



範囲

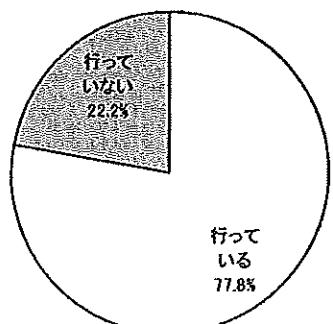
回数

消毒方法

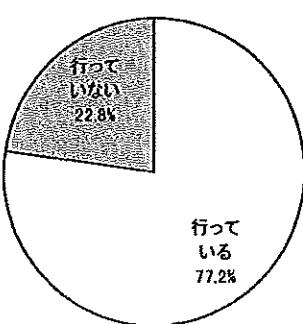
### 3. 予防接種

予防接種は、乗用馬（在来馬を含む。）77.8%、農用馬77.2%が行っている。

項目	乗用馬		農用馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
行っている	21	77.8%	61	77.2%	82	77.4%
行っていない	6	22.2%	18	22.8%	24	22.6%
合 計	27	100.0%	79	100.0%	106	100.0%



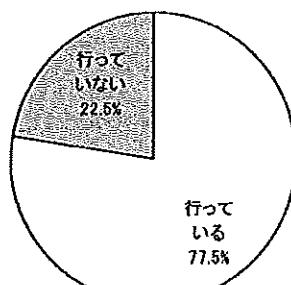
乗用馬



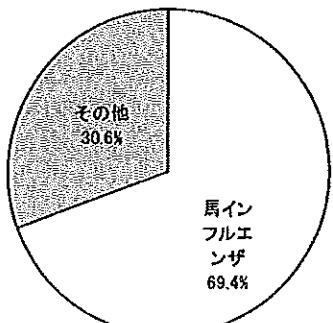
農用馬

軽種馬（繁殖馬）の予防接種は、77.5%が行っている。

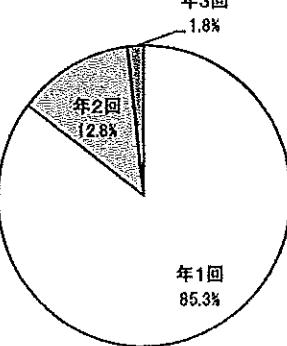
項目	回答数(件)	割合
行っている	124	77.5%
馬インフルエンザ	109	69.4%
年1回	93	85.3%
年2回	14	12.8%
年3回	2	1.8%
小計	109	100.0%
その他	48	30.6%
1回	5	11.1%
2回	11	24.4%
3回	25	55.6%
4回	2	4.4%
5回	2	4.4%
小計	45	100.0%
小計	157	100.0%
行っていない	36	22.5%
合 計	160	100.0%



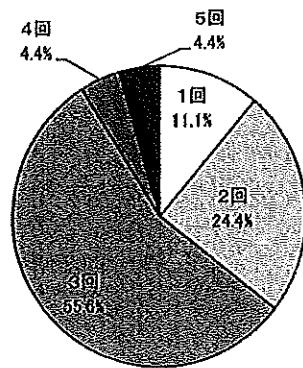
軽種馬



予防接種の種類



馬インフルエンザの接種回数

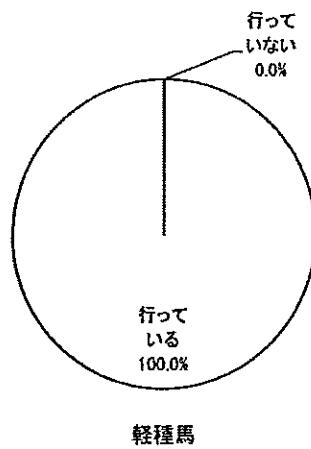


その他の接種回数

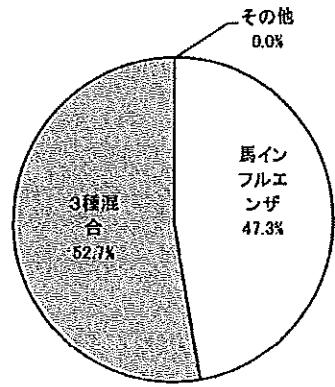
軽種馬（育成馬）の予防接種は、100%が行っている。

#### 育成馬（離乳後）

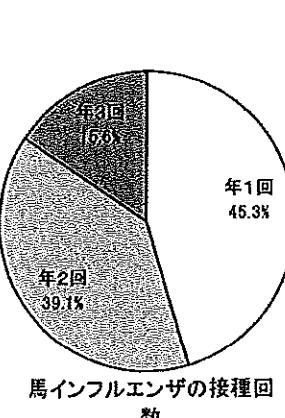
項目	回答数(件)	割合
行っている	156	100.0%
馬インフルエンザ	129	47.3%
年1回	58	45.3%
年2回	50	39.1%
年3回	20	15.6%
小計	128	100.0%
3種混合	144	52.7%
年1回	32	22.2%
年2回	108	75.0%
年3回	4	2.8%
小計	144	100.0%
その他	0	0.0%
小計	273	100.0%
行っていない	0	0.0%
合 計	156	100.0%



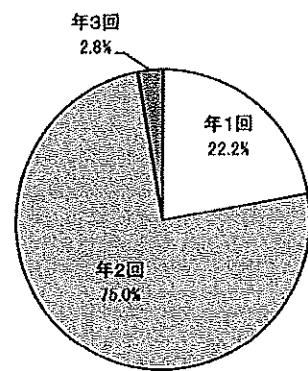
軽種馬



予防接種の種類



馬インフルエンザの接種回数

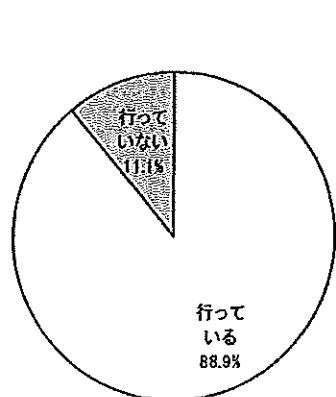


3種混合の接種回数

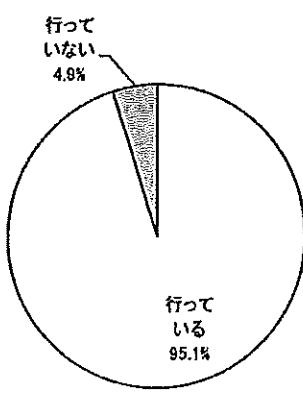
#### 4. 駆虫

駆虫は、乗用馬（在来馬を含む。）88.9%、農用馬95.1%、軽種馬33.8%が行っている。

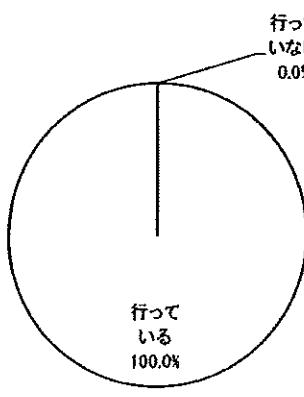
項目	乗用馬		農用馬		軽種馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
行っている	24	88.9%	77	95.1%	160	33.8%	261	97.4%
1~5回					36	22.9%		
6~10回					90	57.3%		
11回~20回					30	19.1%		
21回~50回					0	0.0%		
51回以上					1	0.6%		
小計					157	100.0%		
行っていない	3	11.1%	4	4.9%	0	0.0%	7	2.6%
合 計	27	100.0%	81	100.0%	160	100.0%	268	100.0%



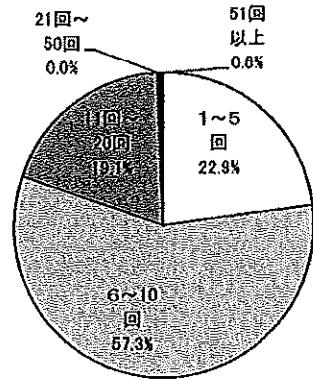
乗用馬



農用馬



軽種馬



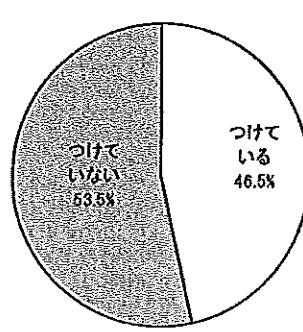
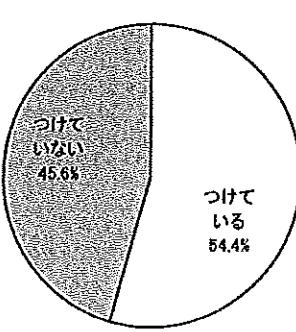
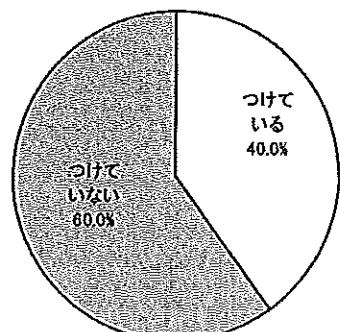
回数

## 5. 疾病・死亡等

### (1)馬の疾病・病気や診療の記録

馬の疾病・病気や診療の記録は、乗用馬（在来馬を含む。）40.0%、農用馬54.4%、軽種馬46.5%が行っている。

項目	乗用馬		農用馬		軽種馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
ついている	10	40.0%	43	54.4%	74	46.5%	127	53.4%
つけていない	15	60.0%	36	45.6%	85	53.5%	136	57.1%
合 計	25	100.0%	79	100.0%	159	100.0%	238	100.0%



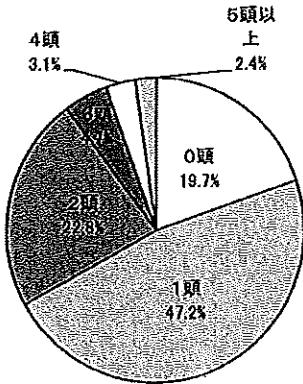
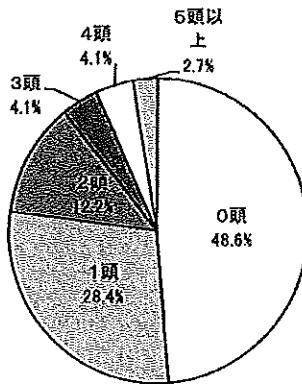
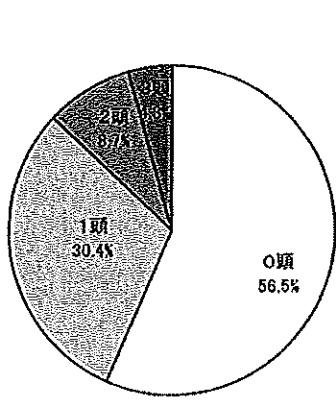
乗用馬

農用馬

軽種馬

### (2)昨年1年間に廃用した馬

項目	乗用馬		農用馬		軽種馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
0頭	13	56.5%	36	48.6%	25	19.7%	74	33.0%
1頭	7	30.4%	21	28.4%	60	47.2%	88	39.3%
2頭	2	8.7%	9	12.2%	29	22.8%	40	17.9%
3頭	1	4.3%	3	4.1%	6	4.7%	10	4.5%
4頭	0	0.0%	3	4.1%	4	3.1%	7	3.1%
5頭以上	0	0.0%	2	2.7%	3	2.4%	5	2.2%
合 計	23	100.0%	74	100.0%	127	100.0%	224	100.0%



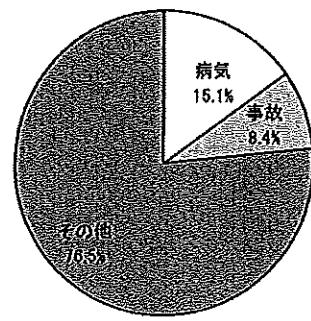
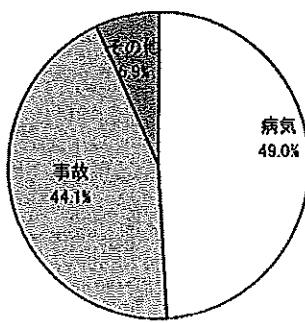
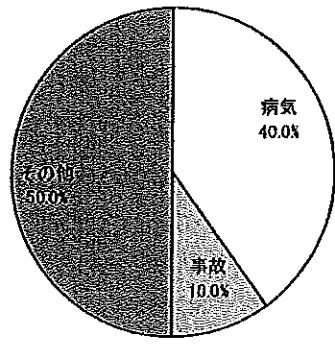
乗用馬

農用馬

軽種馬

(3) 廃用した馬の原因

項目	乗用馬		農用馬		軽種馬		全体	
	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合	回答数(件)	割合
病気	4	40.0%	50	49.0%	25	15.1%	79	28.4%
事故	1	10.0%	45	44.1%	14	8.4%	60	21.6%
その他	5	50.0%	7	6.9%	127	76.5%	139	50.0%
合 計	10	100.0%	102	100.0%	166	100.0%	278	100.0%



## アニマルウェルフェア アンケート（馬）

このアンケート調査は、馬のアニマルウェルフェアに関する指針策定の基礎資料とするために実施するもので、会員皆様に調査のご協力をお願いいたします。

皆様から頂いたアンケート調査結果は、指針策定の目的以外には使用いたしませんので、ご理解をお願いいたします。

（このアンケートのお答えで、不利益を被ることはございません。）

### アニマルウェルフェアについて

1. アニマルウェルフェアとは、畜産動物を対象とした「動物福祉」の考え方で、「家畜の快適性に配慮した飼養管理」とされています。
2. 「家畜の快適性に配慮した飼養管理」の基本的概念は、次の「5つの自由」とされています。
  - ① 飢えと渴きからの自由（栄養管理について）
  - ② 苦痛、傷害又は疾病からの自由（健康管理について）
  - ③ 恐怖及び苦悩からの自由（家畜との接し方について）
  - ④ 物理的、熱の不快さからの自由（厩舎構造・管理について）
  - ⑤ 正常な行動ができる自由（家畜のストレスについて）
3. ペットについての「動物愛護」とは異なるもので、この分野の先進地域はヨーロッパとされています。

### 今回の調査対象とする馬について

1. 今回の調査は、生産段階の軽種馬を対象としており、競走馬及び種牡馬は除外されております。
2. このことから、調査対象馬は「繁殖牝馬」、「当歳馬」、「1歳馬」とされています。

## アニマルウェルフェアアンケート（馬）

番 号  =

所在地（都道府県）\_\_\_\_\_

### I アニマルウェルフェアについて

1 アニマルウェルフェア（家畜の快適性に配慮した飼養管理）をご存じですか。

- ① ( ) 知っている
- ② ( ) 知らない

### II 経営に関する事項について

1 あなたの経営は、次のどれに当てはまりますか

- ① ( ) 家族経営
- ② ( ) 会社経営（有限会社、株式会社）
- ③ ( ) 組合法人
- ④ ( ) その他（ ）

2 従事者は、ご本人・ご家族含めて何名ですか

- ① ( ) 1～2名
- ② ( ) 3～5名
- ③ ( ) 6～9名
- ④ ( ) 10名以上

3 馬の飼養頭数をお伺いします

繁殖馬 牡 ( 頭) 牝 ( 頭)  
当歳馬 牡 ( 頭) 牝 ( 頭)  
1歳馬 牡 ( 頭) 牝 ( 頭)

### III 馬の飼養に関する事項について

1 馬の主な飼養方法は次のどれに当てはまりますか

- ① ( ) 昼間放牧
- ② ( ) 夜間放牧
- ③ ( ) 昼夜放牧

2 放牧地の広さはどのくらいありますか

- ①個人で使用 (\_\_\_\_\_m<sup>2</sup>) (採草地除く)
- ②共同牧野等で使用 (\_\_\_\_\_m<sup>2</sup>)

3 厥舎の規模をお伺いします

- ① ( ) 木造
- ② ( ) 鉄骨
- ③その他 (\_\_\_\_\_)

1 馬房の広さ(\_\_\_\_\_間×\_\_\_\_\_間)

厩舎の馬房数・広さ

- |      |             |                   |             |
|------|-------------|-------------------|-------------|
| 厩舎 1 | 馬房数(____)馬房 | 広さ(_____間×_____間) | 通路幅(_____間) |
| 厩舎 2 | 馬房数(____)馬房 | 広さ(_____間×_____間) | 通路幅(_____間) |
| 厩舎 3 | 馬房数(____)馬房 | 広さ(_____間×_____間) | 通路幅(_____間) |

床構造

- ① ( ) タタキ
- ② ( ) 土砂
- ③ ( ) コンクリート
- ④ ( ) ゴムマット
- ⑤ ( ) その他 (\_\_\_\_\_)

敷 料

- ① ( ) ワラ・麦干
- ② ( ) 乾牧草
- ③ ( ) オガクズ
- ④ ( ) その他 (\_\_\_\_\_)

給水方法

- ① ( ) ウォーターカップ
- ② ( ) 水桶
- ③ ( ) その他 (\_\_\_\_\_)

水の種類

- ① ( ) 井戸水
- ② ( ) わき水
- ③ ( ) 水道水
- ④ ( ) その他 (\_\_\_\_\_)

4 馬洗場の設置状況をお伺いします

- ① ( ) 設置あり (\_\_\_\_\_)頭分 お湯が出る馬洗場(\_\_\_\_\_)頭分
- ② ( ) 設置なし

5 厲舎に詰め所があるかお伺いします

- ① ( ) あり
- ② ( ) なし

6 削蹄や装蹄は定期的に行っているかお伺いします

- ① ( ) 定期的に行っている  
自家削蹄 ( ) 依頼削蹄 ( )  
削蹄 (\_\_\_\_日)に1回  
装蹄 (\_\_\_\_日)に1回
- ② ( ) 定期的に行っていない

7 運動施設があるかお伺いします

- ① ( ) ある  
パドック(\_\_\_\_\_)m<sup>2</sup> 角馬場(\_\_\_\_\_)m<sup>2</sup> 署馬場(\_\_\_\_\_)m<sup>2</sup>  
楕円馬場(走路)(幅員\_\_\_\_\_\_m×\_\_\_\_\_\_距離m) ウォーキングマシン(\_\_\_\_)台
- ② ( ) ない

8 馬の運動量をお伺いします(パドックも含む)

- ① ( ) する  
一日平均放牧時間 夏季(\_\_\_\_\_\_時間) 冬季(\_\_\_\_\_\_時間)  
一日平均運動時間 夏季(\_\_\_\_\_\_時間) 冬季(\_\_\_\_\_\_時間)
- ② ( ) しない

9 馬の手入れ等に関してお伺いします

- ① ( ) ブラッシングをする  
(\_\_\_\_日)に\_\_\_\_回
- ② ( ) 体洗浄をする  
(\_\_\_\_日)に\_\_\_\_回
- ③ ( ) 蹄の手入れをする  
蹄底洗浄(\_\_\_\_日)に\_\_\_\_回 蹄油塗布(\_\_\_\_日)に\_\_\_\_回
- ④ ( ) しない

10 飼料の給餌にあたり参考にしているものがありますか

① ( ) ある

(参考としているもの : \_\_\_\_\_)

② ( ) ない

11 1日の給餌についてお伺いします

乾草給餌について (1頭あたり1日量)

繁殖馬 1日(\_\_\_\_)回、1日量(\_\_\_\_)kg

育成馬(離乳後) 1日(\_\_\_\_)回、1日量(\_\_\_\_)kg

濃厚飼料について (1頭あたり1日量)

繁殖馬

エン麦 1日(\_\_\_\_)回、1日量(\_\_\_\_)kg

配合飼料 1日(\_\_\_\_)回、1日量(\_\_\_\_)kg

その他

(\_\_\_\_) 1日(\_\_\_\_)回、1日量(\_\_\_\_)kg

(\_\_\_\_) 1日(\_\_\_\_)回、1日量(\_\_\_\_)kg

育成馬(離乳後)

エン麦 1日(\_\_\_\_)回、1日量(\_\_\_\_)kg

配合飼料 1日(\_\_\_\_)回、1日量(\_\_\_\_)kg

その他

(\_\_\_\_) 1日(\_\_\_\_)回、1日量(\_\_\_\_)kg

(\_\_\_\_) 1日(\_\_\_\_)回、1日量(\_\_\_\_)kg

飼料添加物について (1頭あたり1日量)

繁殖馬

(\_\_\_\_) 1日(\_\_\_\_)回、1日量(\_\_\_\_)g

(\_\_\_\_) 1日(\_\_\_\_)回、1日量(\_\_\_\_)g

育成馬(離乳後)

(\_\_\_\_) 1日(\_\_\_\_)回、1日量(\_\_\_\_)g

(\_\_\_\_) 1日(\_\_\_\_)回、1日量(\_\_\_\_)g

12 悪癖についてお伺いします

① ( ) 悪癖のある馬がいる

その悪癖のある馬の頭数を教えてください

嗜癖 (\_\_\_\_)頭 さく癖 (\_\_\_\_)頭 熊癖 (\_\_\_\_)頭

蹴癖 (\_\_\_\_)頭 旋回癖 (\_\_\_\_)頭

( ) その他の悪癖と頭数 (具体的に\_\_\_\_)

② ( ) 悪癖のある馬はない

## IV 仔馬(生後6ヵ月頃まで)の飼養管理について

### 1 離乳前(哺育期)についてお伺いします

(1) 仔馬の主な飼養方法は、次のどれに当てはまりますか(○は1つ)

(哺育期間中に移動させる場合は、飼養期間の長い方法についてお答えください)

- ① ( ) 昼間放牧
- ② ( ) 夜間放牧
- ③ ( ) 昼夜放牧

(2) 母馬を含め1頭あたりの馬房の広さは、どのくらいですか(○は1つ)

- ① ( ) 1間×2間  $1.8 \times 3.6 = 6.48\text{m}^2$ 未満
- ② ( ) 2間×2間  $3.6 \times 3.6 = 12.96\text{m}^2$ 未満
- ③ ( ) 2間×2.5間  $3.6 \times 4.5 = 16.20\text{m}^2$ 未満
- ④ ( ) 2間×2.5間  $3.6 \times 4.5 = 16.20\text{m}^2$ 以上

(3) 初めて仔馬に初乳を飲ませるのは、生後何時間くらいですか(○は1つ)

- ① ( ) 生後直ちに与える
- ② ( ) 生後6時間以内
- ③ ( ) 生後6~12時間以内
- ④ ( ) 生後12時間以上たってから

(4) 仔馬に粗飼料を給与するのは、いつ頃からですか(○は1つ)

- ① ( ) 生後2週間以内
- ② ( ) 生後3週間以内
- ③ ( ) 生後4週間以内
- ④ ( ) 生後4週間以上たってから

(5) 離乳で一番多く用いるやり方は次のどれに当たりますか(○は1つ)

- ① ( ) 1日で強制的に離乳
- ② ( ) 段階的に離乳 (具体的なやり方 \_\_\_\_\_)
- ③ ( ) 自然に離乳
- ④ ( ) その他 ( \_\_\_\_\_)

## 2 離乳後についてお伺いします

(1) 仔馬の主な飼養方法は、次のどれに当てはまりますか(○は1つ)

- ① ( ) 昼間放牧
- ② ( ) 夜間放牧
- ③ ( ) 昼夜放牧

(2) 1頭あたりの馬房の広さは、どのくらいですか(○は1つ)

- ① ( ) 1間×2間  $1.8 \times 3.6 = 6.48 \text{m}^2$ 未満
- ② ( ) 2間×2間  $3.6 \times 3.6 = 12.96 \text{m}^2$ 未満
- ③ ( ) 2間×2.5間  $3.6 \times 4.5 = 16.20 \text{m}^2$ 未満
- ④ ( ) 2間×2.5間  $3.6 \times 4.5 = 16.20 \text{m}^2$ 以上

## V 繁殖牝馬の管理について

### 1 分娩前の引き運動についてお伺いします

- ① ( ) している
- ② ( ) していない

### 2 分娩のための特別な馬房はありますか

- ① ( ) ある
- ② ( ) ない

### 3 分娩を監視するモニターはありますか

- ① ( ) ある
- ② ( ) ない

## VI その他

### 1 厲舎の暑熱対策を行っていますか

- ① ( ) 行っている

換気扇 (\_\_\_\_台) 扇風機 (\_\_\_\_台) 細霧システム (\_\_\_\_台)

その他 (\_\_\_\_\_)

- ② ( ) 行っていない

2 害虫駆除を行っていますか

① ( ) 行っている

範囲 ( ) 犀舎内 ( ) 犀舎周り ( ) その他( )

回数 年間 \_\_\_\_\_ 回

消毒薬 ( \_\_\_\_\_ )

消毒方法 ( ) 噴霧 ( ) 散布 ( ) その他

3 予防接種は行っていますか

繁殖馬

① ( ) 行っている

馬インフルエンザ ( \_\_\_\_\_ 回) / 年

その他 ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ 回) / 年

② ( ) 行っていない

育成馬(離乳後)

① ( ) 行っている

馬インフルエンザ ( \_\_\_\_\_ 回) / 年

3種混合(日本脳炎、破傷風、馬インフルエンザ) ( \_\_\_\_\_ 回) / 年

その他 ( \_\_\_\_\_ ) ( \_\_\_\_\_ 回) / 年

② ( ) 行っていない

4 駆虫を行っていますか

① ( ) 行っている

( \_\_\_\_\_ 回) / 年

② ( ) 行っていない

5 疾病・死亡等について差し支えなければお答え下さい

(1) 馬の疾病・病気や診療などの記録をつけていますか

① ( ) ついている

② ( ) つけていない

(2) 昨年1年間に廃用した馬は、何頭ですか

( \_\_\_\_\_ 頭)

(3) 廃用した馬のうち、その原因が疾病・事故等の頭数を教えてください

疾病( \_\_\_\_\_ 頭) 事故( \_\_\_\_\_ 頭) その他( \_\_\_\_\_ 頭)

## アニマルウェルフェア アンケート（馬）

このアンケート調査は、馬のアニマルウェルフェアに関する指針策定の基礎資料とするために実施するもので、会員皆様に調査のご協力を願いいたします。

皆様から頂いたアンケート調査結果は、指針策定の目的以外には使用いたしませんので、ご理解をお願いいたします。

（このアンケートのお答えで、不利益を被ることはございません。）

### アニマルウェルフェアについて

1. アニマルウェルフェアとは、畜産動物を対象とした「動物福祉」の考え方で、「家畜の快適性に配慮した飼養管理」とされています。
2. 「家畜の快適性に配慮した飼養管理」の基本的概念は、次の「5つの自由」とされています。
  - ① 飲食と渴きからの自由（栄養管理について）
  - ② 苦痛、傷害又は疾病からの自由（健康管理について）
  - ③ 恐怖及び苦悩からの自由（家畜との接し方について）
  - ④ 物理的、熱の不快さからの自由（厩舎構造・管理について）
  - ⑤ 正常な行動ができる自由（家畜のストレスについて）
3. ペットについての「動物愛護」とは異なるもので、この分野の先進地域はヨーロッパとされています。

### 今回の調査対象とする馬について

1. 今回の調査は、生産段階の馬を対象としており、競走馬及び種雄馬は除外されております。
2. このことから、調査対象馬は「繁殖雌馬」、「当歳馬」、「1歳馬」、「肥育馬」とされています。

### 記入上の注意

1. 問の後の（　）書きに※がある場合は、該当する事項の（　）内又は□内に○印を付けて下さい。
2. 問の後の（　）書きに☆がある場合は、該当する事項の（　）内に数字を記入して下さい。
3. 問の後の（　）書きに※☆がある場合は、該当する事項の（　）内に○を付け、さらに○印の事項の該当部の（　）内に数字を記入して下さい。

## アニマルウェルフェア アンケート（馬）

社団法人 日本馬協会

番号	所在地（都道府県）

### I アニマルウェルフェアについて

1 アニマルウェルフェア（家畜の快適性に配慮した飼養管理）をご存じですか。（※）

知っている	知らない

### II 経営に関する事項

1 あなたの経営では馬生産が主たる収入源ですか。（※）

① ( ) はい

→ その場合、次のいずれか				
軽種馬	農用馬	乗用馬	肥育馬	その他

② ( ) いいえ

→ その場合、次のいずれか					
酪農	肉用牛	豚・鶏等畜産	畑作等	土建業など自営業	サラリーマン

2 あなたの経営は、次のどれに当てはまりますか（※）

家族経営	株式会社	有限会社	組合法人	その他

3 馬に関する従事者は、ご本人、ご家族含めて何名ですか（※）

1~2名	3~5名	6~9名	10名以上

4 馬の飼養頭数（現時点での飼養頭数を教えて下さい。）（☆）

農用馬	乗用馬	小格馬	在来馬
頭	頭	頭	頭

### III 馬の飼養に関する事項

1 馬の主な飼養方法は、次のどれに当たりますか（※）

通年昼夜放牧	屋根付きの避難場所つきでの通年放牧	通年舎飼	夏期放牧 冬季舎飼

2 上記1の通年舎飼以外に○を付けた人に伺います。放牧場全体の面積はどのくらいありますか（☆）

個人で使用	共同牧野等で飼養
△	△

3 馬に供用している厩舎の構造及び規模をお伺いします

構造 (※)

木造	鉄骨	その他

規模 (☆)

棟数	馬房数	1馬房の面積	厩舎面積
棟	馬房	坪	坪

床構造 (※)

タタキ	土砂	コンクリート	ゴムマット	その他

敷料 (※)

ワラ・麦干	乾牧草	オガクズ	その他

給水方法 (※)

ウォーターカップ	水桶	その他

水の種類 (※)

井戸水	わき水	水道水	その他

4 馬洗場の設置状況をお伺いします。(※)

あり	なし

5 倉舎に詰め所があるかお伺いします。(※)

あり	なし

6 削蹄は定期的に行っているか伺います。(※)

行っている		必要に応じて	なし
自家削蹄	依頼削蹄		

7 運動施設があるかお伺いします。(※☆)

ある		ウォーキングマシーン	なし
パドック	馬場		
m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>		

8 舍飼管理されている方の馬の運動量をお伺いします。(パドックも含む) (※☆)

する		自由運動	しない
夏期	冬季		
時間	時間		

9 舎飼時、馬屋に行きますか。(※☆)

① ( ) 分娩時などの時を除いて餌の給餌のとき以外は行かない

② ( ) 給餌以外でもブラッシングなどのために行く

→ ( ) 毎日行く、( ) 日に1回行く

10 馬の手入れ等についてお伺いします。(※☆)

ブラッシング	体洗浄	蹄の手入れ	なし
( ) 日に一回	( ) 日に一回	( ) 日に一回	( ) 日に一回

11 悪癖についてお伺いします。(☆)

ある						ない
嗜癖	さく癖	熊癖	蹴癖	旋回癖	その他	
頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭

12 飼料の給餌に当たり「軽種馬飼養標準」(JRA 競走馬総合研究所編)を参考にしていますか(※)

( ) している。

→その場合、「標準」のどの部分を参考にしますか

養分要求量表に基づく飼料設計に基づいて給餌している。( )

ボディコンディションスコアを参考にしている。( )

( ) していない。

13 放牧時以外の給餌についてお伺いします。(※☆)

乾草給餌について

成馬

①( ) 時間を決めて給餌する

→ 1日( )回、1回につき約( )kg/頭

②( )パドック等で自由採取

→ 約( )kg(ロール等)を( )日に1回、( )頭分

育成馬(離乳後)

①( )時間を決めて給餌する

→ 1日( )回、1回につき約( )kg/頭

②( )パドック等で自由採取

→ 約( )kg(ロール等)を( )日に1回、( )頭分

濃厚飼料(エン麦、圧ペン、ふすま、配合飼料を含む)についてお伺いします。

成馬

1日( )回、1回につき( )kg/頭

育成馬(離乳後)

1日( )回、1回につき( )kg/頭

IV 仔馬(生後6ヵ月頃まで)の飼養管理について、お伺いします。

1 離乳前(哺育期)について、お伺いします

(1) 仔馬の主な飼養方法は、次のどれに当てはまりますか(※)

(哺育期間中に移動させる場合は、飼養期間の長い方法についてお答えください)

野外放牧	屋根付きの避難場所付きでの放牧	夜間舎飼 日中放牧	舎飼
(3)へお進みください		(2)へお進みください	

(2) 親を含めた1頭当たりの飼養スペースは、どのくらいですか。(※)

(哺育期間中に移動させる場合は、飼養期間の長い方法についてお答えください)

1間×2間 1.8×3.6=6.48 m <sup>2</sup> 未満	2間×2間 3.6×3.6=12.96 m <sup>2</sup> 未満	2間×2.5間 3.6×4.5=16.20 m <sup>2</sup> 未満	2間×2.5間 3.6×4.5=16.20 m <sup>2</sup> 以上

(3) 初めて仔馬に初乳を飲ませるのは、生後何時間後くらいですか。(※)

直ちに	6時間以内	6~12時間以内	12時間以上たってから

(4) 仔馬に粗飼料を給与するのは、いつ頃からですか。(※)

2週間以内	3週間以内	4週間以内	4週間以上

(5) 離乳で一番多く用いるやり方は次のどれに当たりますか。(※)

1日で強制的に	段階的に	自然離乳	その他

## 2 離乳後について、お伺いします

(1) 仔馬の主な飼養方法は、次のどれに当てはまりますか。(※)

(育成開始までに移動させる場合は、飼養期間の長い方法についてお答えください)

野外放牧	屋根付きの避難 場所付きでの放牧	夜間舎飼 日中放牧	舎飼
(3) へお進みください		(2) へお進みください	

(2) 1頭当たりの飼養スペースは、どのくらいですか。(※)

1間×2間 1.8×3.6=6.48 m <sup>2</sup> 未満	2間×2間 3.6×3.6=12.96 m <sup>2</sup> 未満	2間×2.5間 3.6×4.5=16.20 m <sup>2</sup> 未満	2間×2.5間 3.6×4.5=16.20 m <sup>2</sup> 以上

(3) 去勢を行う場合、事例として1番多いのはいつですか。(※)

当歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上

## V 繁殖雌馬の管理について

1 分娩前に特別な運動についてお伺いします。(※)

している	していない

2 分娩のための特別な馬房はありますか。(※)

ある	ない

3 分娩を監視するモニターはありますか。(※)

ある	ない

## VI その他

1 厩舎の暑熱対策を行っていますか。(※)

行っている	行っていない

2 害虫駆除を行っていますか。(※)

行っている	行っていない

3 予防接種は行っていますか。(※)

行っている	行っていない

4 駆虫を行っていますか。(※)

行っている	行っていない

5 疾病・死亡等についてお伺いします(差し支えなければお答えください)

(1) 馬の疾病・病気や診療の記録をつけていますか。(※)

① ( ) ついている

② ( ) つけていない

(2) 昨年1年間に廃用した馬は、何頭ですか。(☆)

( 頭)

(3) 廃用した馬のうち、その原因が疾病・事故等の頭数を教えて下さい。(☆)

病気 ( ) 頭 事故 ( ) 頭 その他 ( )

## 第1 一般原則

### 1 本指針での「アニマルウェルフェア」の定義

“Animal Welfare”は、日本語では、「動物福祉」や「家畜福祉」と訳されている場合がある。しかし、「福祉」という言葉が社会保障を指す言葉として使用されていることから、本来の「幸福」や「良く生きること」という考え方方が十分に反映されておらず、誤解を招くおそれがある。

そのため、本指針では、「アニマルウェルフェア」を「快適性に配慮した家畜の飼養管理」と定義することとする。

### 2 わが国の畜産とアニマルウェルフェア

馬については、従来、軍用、農耕・運搬用等の使役目的で飼養されていたが、戦後、農業機械や交通機関の発達等によって役畜としての使途が薄れ、現代では競走用、乗用、ふれあい用、そして食肉用とその目的は多様化している。

これらの需要のうち、競走用、乗用等の需要については、他の家畜と異なり、調教により行動を制御する必要があり、人間と心が通じ合う馬を生産することが求められることから、快適性に配慮した飼養管理を行う必要がある。また、食肉用の需要については、他の家畜（牛、豚等）と同様に、馬を快適な環境で飼うことは、馬が健康であることによる安心・安全な畜産物の生産につながるものである。なお、アニマルウェルフェアへの対応とは、最新の施設や設備を導入することを生産者が求められるのではなく、家畜の健康を保つために、家畜の快適性に配慮した飼養管理をそれぞれの生産者が考慮し、実行することである。本指針では、畜舎の構造や設備についても言及しているが、アニマルウェルフェアへの対応において、最も重視されるべきは、施設の構造や設備の状況ではなく、日々の家畜の観察や記録、良質な飼料や水の給与等の適正な飼養管理により、家畜が健康であることであり、そのことを関係者が十分認識して、その推進を図っていく必要がある。

### 3 国際的な動向

“Animal Welfare”を先進的に取り組んでいる欧州においては、1960年代、密飼い等の近代的な畜産のあり方についてその問題が提起され、英国で提起された「5つの自由」を中心に、“Animal Welfare”的概念が普及し、現在では、EU指令として“Animal Welfare”に基づく飼養管理の方法が規定され、各国はEU指令に基づき、法令・規則等をそれぞれに定めている。

また、カナダ、豪州等でも、政府や関係者がガイドラインを設定する等、それぞれが“Animal Welfare”に取り組んでいる。

さらに、国際獣疫事務局（OIE）においては、“Animal Welfare”に関する基準（ガイドライン）の検討が行われており、2005年には輸送やと畜に関するガイドラインが策定され、現在、畜種毎に畜舎や飼養管理に関するガイドラインの検討が進められている。

今後も“Animal Welfare”をめぐる国際的な動向の変化に留意する必要がある。

### (参考)「5つの自由」

アニマルウェルフェアの観点では、元々、欧州において定着し、国際的にも知られた概念である「5つの自由」(①飢餓と渴きからの自由、②苦痛、傷害又は疾病からの自由、③恐怖及び苦悩からの自由、④物理的、熱の不快さからの自由、⑤正常な行動ができる自由)について、わが国でも考慮する必要があると考えられる。

その中には、「①飢餓と渴きからの自由」、「②苦痛、傷害又は疾病からの自由」、「③恐怖及び苦悩からの自由」、「④物理的、熱の不快さからの自由」のように、家畜の健康及び生産性と密接に関連することから、わが国でも受け入れられやすいものもあり、これらについては本指針でも考慮して作成を行っている。

また、「⑤正常な行動ができる自由」、例えば、長時間食探する行動は、馬の中に強い行動欲求があることが知られており、この行動を阻害されることで、熊癖、さく癖等が発現することがあることから、アニマルウェルフェアを考える上で重要な要素である。一方で、これらの行動に対応する飼養方式への変更にはコストがかかる場合があることから、産業としてわが国の馬産を考えた場合、どのように位置づけていくべきか、今後、さらに議論や研究が必要である。

## 4 本指針の活用

本指針は、社団法人日本馬事協会が検討会を設置し、農業として馬を生産・飼養する者（競馬、乗馬等を扱う者は含まない。）を対象に、農場内において、アニマルウェルフェアに適切に対応した馬の飼養管理を実施するための指針としてとりまとめ、公表するものである。

今後、アニマルウェルフェアに生産者が積極的に取り組み、さらには、行政機関においても、本指針を活用して、アニマルウェルフェアの取組を生産者等に積極的に普及啓発することを目的とするものである。

わが国では、これまでアニマルウェルフェアについて深く議論されることが少なかったため、アニマルウェルフェアに対する生産者、馬に携わる関係者等の理解は必ずしも十分ではない。このため、生産者自身がアニマルウェルフェアの考え方を十分に理解するよう努めるとともに、馬に携わる関係者等に対しては、馬産の実態を含めて正しい情報提供に努め、理解の醸成を図ることも重要である。

## 5 関係法令の遵守

家畜の飼養管理に関する法令上の基準等については、動物愛護管理法に基づく「産業動物の飼養及び保管に関する基準」や家畜伝染病予防法に基づく「家畜飼養衛生管理基準」等が定められている。アニマルウェルフェアへの取組に当たっては、それらの法令上の基準等を遵守することが必要である。

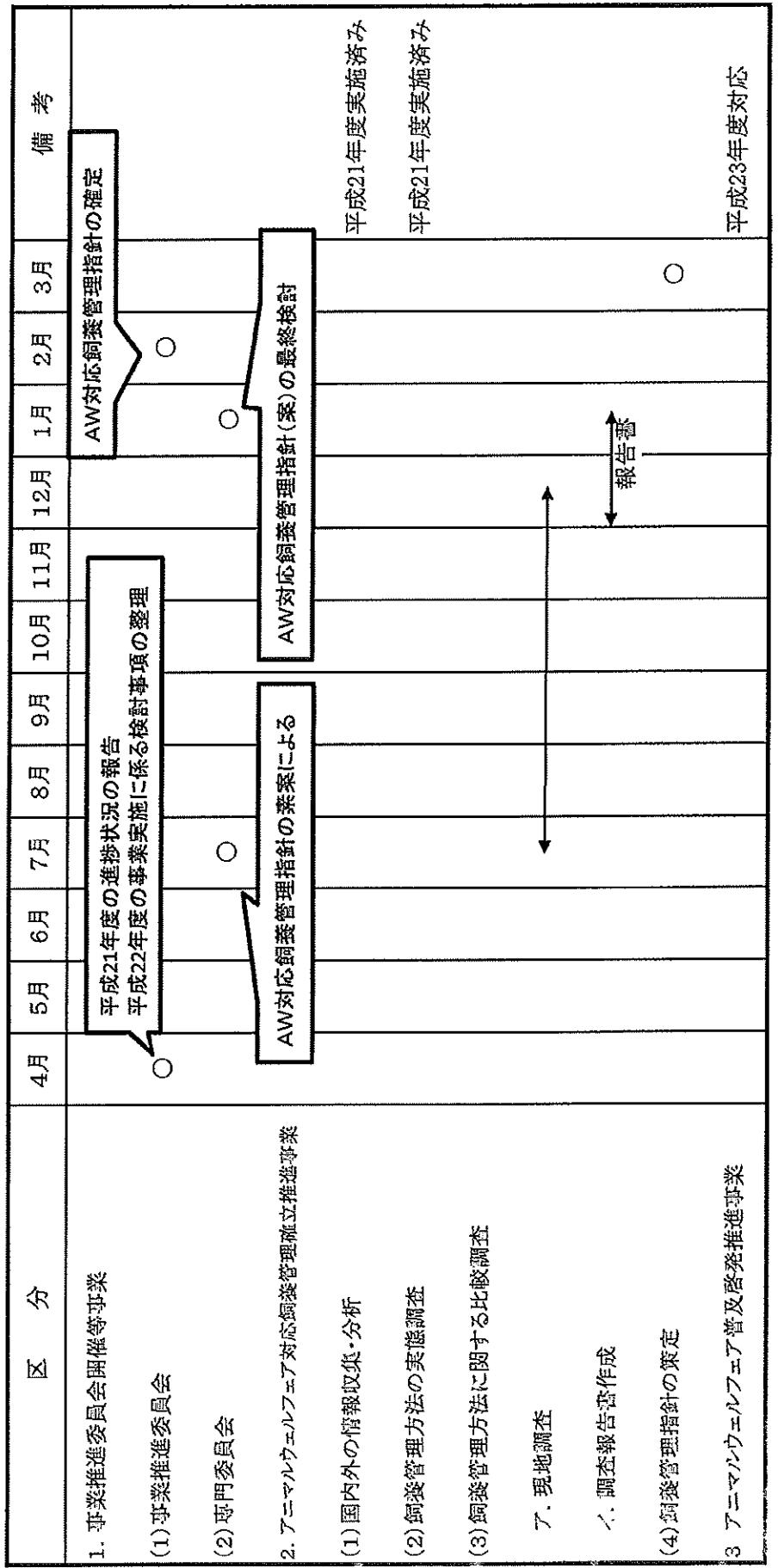
## 6 本指針の見直し

本指針は、将来新たな科学的知見が得られた場合や国際的な動向の変化等に対応し、必要に応じて見直しを行うものとする。

また、現在の科学的知見は、欧米で得られたものが中心であるが、今後は、わが国独自の研究が一層進展し、本指針の見直しに寄与することが期待される。

資料3

平成22年度アニマルウェルフェア対応飼養管理確立推進事業実施スケジュール



平成 22 年度アニマルウェルフェア飼養管理確立推進事業実施計画

区 分	事 業 の 内 容	備 考
1 事業推進委員会開催等事業 (1) 事業推進委員会 (2) 専門委員会 (3) 科学的知見専門部会	学識経験者等からなる事業推進委員会を開催し、事業の総合的な実施方針の検討を4月に行うとともに、専門委員会で策定した飼養管理指針の最終検討を行。有識者からなる専門委員会を開催し、アニマルウェルフェアに基づく飼養管理指針の策定について検討を年2回行う。  平成 21 年度実施済み	平成 21 年度から平成 23 年度
2 アニマルウェルフェア対応飼養管理確立推進事業 (1) 国内外の情報収集・分析 (2) 飼養管理方法に関する実態調査 (3) 飼養管理方法に関する比較調査 (4) 飼養管理指針の策定	(1) 飼養管理方法に関する比較調査 (2) 現地調査を行う。  馬における従来の飼養管理方式とアニマルウェルフェアに配慮した飼養管理方式に関する比較を行うための現地調査を行う。  アニマルウェルフェアに対応した馬の飼養管理指針の策定を行う。	平成 21 年度から平成 22 年度 平成 21 年度実施済み
3 アニマルウェルフェア普及啓発推進事業 (1) 普及啓発セミナーの開催 (2) 現地勉強会の開催 (3) 普及啓発冊子の作成・配布 (4) アンケート調査	(1) 普及啓発セミナーの開催 (2) 現地勉強会の開催 (3) 普及啓発冊子の作成・配布 (4) アンケート調査	平成 23 年度に実施する。

## 馬のアニマルウェルフェアに対応した飼養管理指針に盛り込む事項

### 1. 一般原則

(案) 参照

### 2. 管理方法

#### ① 観察・記録

- ・観察・記録の必要性
- ・観察する時のポイント

#### ② 馬の取扱い

- ・不要なストレスを与えないよう丁寧に扱うこと

#### ③ 蹄の管理

- ・蹄管理の目的・必要性
- ・削蹄する時の留意事項

#### ④ 去勢

- ・去勢の目的・必要性
- ・去勢する時の留意事項

#### ⑤ 歯

- ・歯の点検の重要性、歯刷りの必要性

#### ⑥ 個体識別

- ・個体識別の必要性とその方法
- ・個体識別を行う際の留意点

#### ⑦ 離乳

- ・離乳する時の留意事項

#### ⑧ 病気、事故等の処置

- ・未然に防止することが重要（伝染病の蔓延防止）
- ・けがや病気をしている馬の処置
- ・回復の見込みのない馬の処置（安楽死）

#### ⑨ 犀舎等の清掃・消毒

- ・施設や設備を清潔に保つこと
- ・建設や器具の洗浄・消毒の必要性

#### ⑩ 放牧及び運動施設の確保

- ・施設等の安全性を保つこと
- ・一定のスペースの確保
- ・一日当たりの放牧時間
- ・衛生的な水の給与

#### ⑪ 有害動物等の防除・駆除の必要性

- ・ネズミ、ハエ等の防除・駆除の必要性
- ・内外部寄生虫の防除・駆除の必要性
- ・飼料や水への野生動物の排泄物等の混入防止
- ⑫ 管理者等のアニマルウェルフェアへの理解の促進
- ・アニマルウェルフェアについて十分に理解すること
- ・知識の習得に努めること

### 3. 栄養

- ① 必要栄養量・飲水量
  - ・発育段階や泌乳ステージに応じた飼料給与
  - ・ボディコンディションスコアにおける管理
  - ・新鮮な水の給与
- ② 飼料・水の品質の確保
  - ・給餌・給水器を清潔に保つこと（病気の観点からの給水方法等を記述）
  - ・飲水は夏季の高温や冬季の凍結に注意すること
  - ・飼料や水への野生動物の排泄物の混入防止
- ③ 給餌・給水の方法
  - ・十分な給餌・給水スペースの確保
  - ・飼料や水は毎日給与すること
- ④ 初乳・仔馬の給餌
  - ・初乳給与の重要性
  - ・粗飼料給与の必要性
- ⑤ 離乳
  - ・離乳時における飼料給与

### 4. 飼養方式

- ・馬にとって快適な厩舎環境の確保
- ① 飼養方式
    - ・通年舎飼い方式、夏季放牧・冬季舎飼方式、通年放牧方式
  - ② 飼養スペース
    - ・適切な飼養スペース
    - ・馬を観察し、スペースが適切であるか判断することの重要性

### 5. 厩舎の環境

- ・構造上配慮すること
- ① 敷料
    - ・馬が苦痛のない量
  - ② 構造
    - ・馬が怪我をしない構造
    - ・床の構造
  - ③ 热環境
    - ・馬にとって快適な温度域
    - ・暑熱時や寒冷時にみられる馬の行動
  - ④ 換気
    - ・換気の必要性
    - ・アンモニア濃度の上昇防止
  - ⑤ 照明
    - ・基本行動の発現に十分な明るさの確保
  - ⑥ 騒音
    - ・絶え間ない騒音・震動や突然の騒音の防止

## 6. その他

- ① 設備の点検・管理
  - ・設備の点検し適切に管理すること
- ② 緊急時の対応
  - ・緊急事態に対応するための危機管理マニュアルの作成を推奨
  - ・停電に備えた自家発電機等の整備

## 付録 I

### 1. 馬のボディコンディションスコア (B C S)

(出典：「軽種馬飼養標準（2004年版）」

### 2. 付録II

「動物の殺処分方法に関する指針（平成7年7月4日総理府告示第40号）」

（改正 平成19年11月12日環境省告示第105号）